

委員ハ區會ニ於テ之ヲ選舉ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 區吏員ハ任期滿限ノ後再選セララルコトヲ得

第二款 區吏員ノ職務權限

第二十一條 區長ハ區ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 區會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事

二 區有財産及區ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 區ノ權利ヲ保護スル事

四 區ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他區會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

五 區吏員ヲ監督シ其ノ任免ニ係ル區吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第十二條ヲ第)

六 區ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ區ヲ代表シ及區ノ名義ヲ以テ他應若クハ一個人ト交渉スル事

八 法律命令若クハ區會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ區長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第二十二條 區長ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ區ニ關スル國ノ行政事務ヲ掌ル

前項ノ事務ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ記載スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ區ノ負擔トス

第二十三條 區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決其ノ權限ヲ越ヘ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

ハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第十二條ヲ)

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ北海道廳長官ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ(第二十三條ニ改メ以下第十五條ヲ順次繰下ク)

シ又前項取消ニ不服アル區會ハ北海道廳長官ニ訴願スルコトヲ得

前項北海道廳長官ノ決定若クハ裁決ニ不服アル區會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ北海道廳長官ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ

シ其ノ北海道廳長官ノ決定ニ不服アル區會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ決定若クハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 區會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決

必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ北海道廳長官ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ

但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ北海道廳長官ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項北海道廳長官ノ處分ニ不服アル區會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 區會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ區長ハ北海道廳長官ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ

トキハ此ノ限ニ在ラス

議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

區會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

第二十六條 第六十六條但書若クハ第六十八條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキ

ハ前條ノ例ニ依ル(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第十六條ヲ第二十六條ニ改メ)

第二十七條 區長ハ區吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得(三十二年勅令第三百

七條第十八條ヲ削リ

第二十八條 助役ハ區長ノ事務ヲ補助ス

區長ハ區會ノ同意ヲ得北海道廳長官ノ許可ヲ經テ助役ヲシテ區行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ區長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第二十九條 收入役ハ法律命令中別段ノ規定アルモノノ外區ノ出納其ノ他會計事務並第二十二條ニ依

ル國ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

收入役代理者ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

區長ハ收入役及區會ノ同意ヲ得テ收入役代理者ヲシテ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

收入役代理者ハ收入役故障アルトキハ之ヲ代理ス收入役代理者數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第三十條 書記其ノ他ノ附屬員ハ區長ノ命ヲ承テ庶務ニ従事ス

第三十一條 部長及其ノ代理者ハ區長ノ命令ヲ承テ部内ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付區長ノ事務

ヲ補助執行ス(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第十九條ヲ)

第三十二條 委員ハ區長ノ監督ニ屬シ區有財産若クハ區ノ營造物ヲ管理シ其ノ他區行政事務ノ一部ヲ

分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第三十三條 區役所ノ處務規程ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他區吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許

可ヲ得テ區長之ヲ定ム

區吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第三十四條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外區會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經テ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十五條 區長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ)

區長ノ給料額ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若クハカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ定ム

區長ノ給料支給方法並旅費額及其ノ支給方法助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若クハカラスト認ムルトキハ北海道廳長官之ヲ定ム

本條ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區條例ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前二項ノ

許可ヲ受クルコトヲ要セス

區條例ヲ以テ有給吏員ノ退隱料退職給與金及遺族扶助料ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十六條 有給吏員ノ給料旅費退隱料遺族扶助料其ノ他第三十四條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス (三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第二十四條ヲ第三十六條ニ改メ條中第二十二條ヲ第三十四條ニ改ム)

第三十七條 給料旅費退隱料遺族扶助料報酬辨償等ハ區ノ負擔トス (三十二年勅令第三百七十八號ヲ改メ以下第三十條迄順次繰下ク)

第三章 區會

第一款 組織及選舉

第三十八條 區會議員ハ區ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員ハ人口五萬未滿ノ區ニ於テハ二十四人以下トシ人口五萬以上ノ區ニ於テハ三十人以下トシ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 區公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接區稅ヲ納ムル者其ノ額區公民ノ最多ク直接區稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ區住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ區住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 選舉人ハ分テ三級トス

選舉人中直接區稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス

一級選舉人ヲ除ク外直接區稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ區内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年數ニモ依リ難キトキハ區長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人每級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

第四十一條 區域廣濶又ハ人口稠密ナル區ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級三級選舉ノ爲ニ之ヲ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第四十二條 特別ノ事情アル區ニ於テハ區條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ區内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若

クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設ケタルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第四十三條 選舉權ヲ有スル區公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第  
三十一條ヲ第四十三條ニ改メ條中改正)

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス

一 北海道廳ノ官吏

二 其區ノ有給區吏員

三 檢事警察官吏及收入官吏

四 神官僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數

ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ

時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

區長又ハ助役トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間

ニ其ノ緣故アル者區長又ハ助役ノ任ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第四十四條 區會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ

議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以

テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日選舉ノ數日ニ亘ル又ハ定期改選期日選舉ノ數日ニ亘ルヨリ起

算シ曆ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部

若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セラレハコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日

ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セラルコトヲ得

議員ニ關シテハ第三十四條第一項第三項第三十六條第三十七條ノ例ヲ適用ス(三十二年勅令第三百  
七十八號ヲ以テ第三

十二條ヲ第四十四條

ニ改メ本項中改正)

第四十五條 區會議員中關員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員

三分ノ一以上關員アルトキ又ハ區會議員若ハ北海道廳長官ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定

期前ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第三十二條  
第三十三條ヲ第四十五條ニ改メ本項中改正)

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之ヲ選舉ヲ行フヘシ

第四十六條 區長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記

載セル選舉原簿ヲ調製シ此原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設ケタルトキハ每選舉區

各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第三十四條ヲ  
第四十六條ニ改メ以下第三十七條迄順次繰下ク)

選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間區役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若

關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ其

申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政

裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分、決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セズ  
區長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ  
選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行  
フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス  
但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正  
スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第四十七條 選舉ヲ行フトキハ區長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並毎選舉區及毎  
級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘ  
シ

第四十八條 選舉掛ハ名譽職トシ區長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ區長若クハ  
其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ヌ但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クルトキ  
ハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第四十九條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若  
クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第五十條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉  
人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

區住民ニ非スシテ第三十九條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代  
理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第  
三十八條ヲ第五十條ニ改メ本項中改正)

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封  
緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第五十一條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第  
六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ

無効トス(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第三十九條ヲ  
第五十一條ニ改メ以下第四十六條迄順次繰下ク)

一 氏名ヲ記載セサルモノ

二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラ  
ス

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ  
投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトハ掛長之ヲ決ス

第五十二條 區會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長  
者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票

ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第五十三條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第五十四條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ區長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ區長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補選ト選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

第五十五條 選舉人選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

北海道廳長官ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ

前項北海道廳長官ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第五十六條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條 選舉若クハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第五十八條 區會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス區長若クハ區會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ北海道廳長官ニ申立ツヘシ第一項資格要件ノ有無ハ北海道廳長官ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス

前項北海道廳長官ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第二款 職務權限及處務規程

第五十九條 區會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 一 區條例及區規則ヲ設定スル事
- 二 區費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ國ノ行政事務ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 歲入出豫算ヲ定ムル事
- 四 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料區稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
- 五 區有不動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事 (三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第四十七條ヲ第五十九條ニ

改本號  
中改正

- 六 基本財産及積立金殺等ノ處分ヲ爲ス事
- 七 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 八 區有財産及區ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 九 區吏員ノ身元保證ヲ徵シ並其ノ額ヲ定ムル事
- 十 區ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他區會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第六十條 區會ハ區ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ區長ノ報告書ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得

區會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ區長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類並金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

區會ハ區ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ區長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

區會ハ區長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第六十一條 議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第六十二條 區會ハ區長ヲ以テ議長トス

區會ハ區會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選舉スヘシ

議長代理者ハ區會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選舉ハ總選舉ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第六十三條 議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ區會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選舉スルモ妨ナシ

第六十四條 區長及其ノ委任ヲ受クタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第六十五條 區會ハ會議ノ必要アル毎ニ區長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

召集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ

區會ハ區長之ヲ開閉ス

第六十六條 區會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條 區會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第六十八條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ區會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第六十九條 區會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又區長ヨリ要求アリタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第七十條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第七十一條 會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設ク

ルコトヲ得

第七十二條 前條ニ依リ「拓殖務大臣」ノ定ムル規則ノ外區會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

區會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第七十三條 區會ノ書記ハ區吏員ノ中ニ就キ區長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隸屬シテ庶務ニ從事ス  
議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シテ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ  
會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス  
議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ區長ニ報告スヘシ

第四章 區ノ財務

第一款 區有財產及區稅

第七十四條 區ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ  
北海道廳長官ハ區ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財產ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財產ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

區ハ區規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財產若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財產若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 區有財產ハ其ノ收益ヲ以テ區ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ區ノ直接ノ公用若クハ區住民ノ直接ノ共用ニ供シタル區有財產ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ牴觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 區有財產ヲ區住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ區規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十七條 區有財產ノ賣却貸與又ハ區ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價格其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ區會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 區ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 區ハ其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラル、支出ヲ負擔スル義務アリ

區ハ區有財產ヨリ生スル收入使用料手數料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十條 區ハ區有財產若クハ區ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十一條 區稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ區ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス



特別税ハ別ニ區限リ税目ヲ設ケ課税スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス  
第八十二條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別税ニ關スル細則ハ區條例又使用料手数料ニ關スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十三條 區住民ニ非スト雖三箇月以上區内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初若クハ滞在ノ初ニ遡リ區税ヲ納ムル義務アルモノトス

區住民ニ非ス又三箇月以上區内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖區内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ區内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ區内ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル區税ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條 所得税ノ附加税ヲ賦課シ及區ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課スルトキハ納税義務者ノ區外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ區外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ區税ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課税スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

數市區町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業税ノ附加税ヲ賦課スルトキハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ本税額ヲ各區町村ニ分割シテ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第  
七十二條ヲ第八十四條ニ改メ本項追加)

第八十五條 所得法第五條ニ掲グル所得ニ對シテハ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス(三十二年勅令第三百七十三條ヲ第八十五條ニ改メ第一項及第五項中改正)

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體ニ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ對シテハ第百十六條ニ掲クル期間中ハ區税ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外區税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ  
皇族ニ係ル區税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第八十六條 區有財産ヲ區住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財産ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得(三十二年勅令第三百七十四條ヲ第八十六條ニ改メ)

第八十七條 區住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設、維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

區ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ區税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ  
第八十八條 地租ノ附加税ハ其ノ納期ヲ定メ納期納期ノ數日ニ亘ルニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵

收スルモノトス但シ賃入ノ土地ニ對シテハ賃取主ヨリ收徵スルモノトス  
地租ノ附加税ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若ク  
ハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地租目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其  
ノ月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得税ノ附加税ハ本税ノ納期ニ於テ本税ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス  
本條ニ規定スルモノヲ除外附加税徵收ノ方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十九條 區ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工ニ  
關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除外直接區稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ  
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役  
現品ハ急迫ノ場合ヲ除外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九十條 區ニ於テ徵收スル使用料加入金手数料區稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他區ノ公法上ノ收入  
ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ區長ハ國稅滯納ノ處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督  
促及手数料ニ關シテハ區規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ區長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得  
其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ區會ノ議決ニ依ル本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取  
特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第九十一條 區稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ受  
ケタル日ヨリ三箇月以内ニ區長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

區有財產若クハ區ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ區長之ヲ決定ス其ノ區長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長  
官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十二條 區ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ區ノ永久ノ利益ト爲  
ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ區住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り區債ヲ  
起スコトヲ得(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第八十條第九十二條ニ改メ同條第四項ヲ削ル)

區債ヲ起スニ付區會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘ  
キモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルトキモ  
亦同シ

區債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年年ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還  
了スルヲ以テ常例トス

區ハ債券ヲ發行セサルヲ常例トス又如何ナル場合ニ於テモ無記名、債券ヲ發行スルコトヲ得ス  
豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘ  
キモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 區ノ歳入出豫算及決算

第九十三條 區長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ年  
度二箇月前ニ區會ノ議決ヲ經ヘシ但シ區ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ(三十二年勅令第三百  
十一條ヲ第九十三條ニ改メ以テ)  
下第九十四條迄順次繰下ク  
豫算ヲ區會ニ提出スルトキハ區長ハ併セテ區ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第九十四條 區長ハ必要ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十五條 豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但區會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日區會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス  
區ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ區會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

區ハ區規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得  
豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ區會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ北海道廳長官ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第九十六條 豫算ノ議決ヲ經タルトキハ區長ヨリ其ノ賸本ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ區長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス區長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ナキカ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ依ラザルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス  
第九十七條 區ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査ヲ行ヒ又毎年少クトモ一回臨時検査ヲ行フヘシ

検査ハ區長若クハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ區會ノ選舉シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス  
第九十八條 區ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ區長ニ提出スヘシ區長ハ之ヲ審

査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ  
區長ハ決算報告書及之ニ關スル區會ノ議決ヲ北海道廳長官ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章 區内ノ一部ノ行政

第九十九條 區内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ區會ノ意見ヲ聞キ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム  
第一百條 前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章 區行政ノ監督

第一百一條 區行政ハ第一次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第二次ニ於テ「拓殖務大臣」之ヲ監督ス  
第一百二條 此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一百三條 監督官廳ハ區行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ區行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス  
「拓殖務大臣」ハ北海道廳長官ノ區行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第四百四條 北海道廳長官ハ區ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ  
前項北海道廳長官ノ處分ニ不服アル區會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得  
本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四百五條 區會ノ解散ハ「拓殖務大臣」之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ  
北海道廳長官ハ十日以内ニ於テ區會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第四百六條 區條例ノ設定ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第四百七條 左ニ掲クル事件ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス  
一 區債ヲ起シ並借入方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第九十二條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第九十五條ヲ第九十七條ニ改メ本號中改正)  
二 特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル事  
三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第四百八條 國庫ヨリ直接ニ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事  
左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(三十二年勅令第三百七十八號ニ改メ同條第四號第五號ヲ第十號第十一號中改正)  
一 區規則ヲ設定スル事

二 使用料手數料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事  
四 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若クハ大ナル變更ヲナス事

五 區有不動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事

六 基本財産及積立金穀ノ處分ヲ爲ス事

七 各種ノ保證ヲ與フル事

八 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事

九 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

十 第八十六條第八十七條ニ依リ區住民ノ一部若クハ區内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

十一 第八十九條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第四百九條 北海道廳長官ハ區長助役收入役收入役代理者部長委員其ノ他區吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス  
前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フ者トス

區長ノ解職ハ內務大臣勅裁ヲ經テ之ヲ行フ(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第九十七條ヲ第九十九條ニ改メ同條第一項ヲ改正シ本項ヲ追加ス)  
隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ本條解職ノ處分ニ不服アル者ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四百十條 區吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタルコトアルカ爲區ニ對シ賠償スヘキコトアルトキハ北海道廳長官之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ出訴ヲ爲シタルトキハ北海道廳長官ハ假ニ其ノ財産ヲ差押フルコトヲ得(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第九十九條ノ次ニ本條ヲ追加ス)

第七節 附則  
第七條 附則  
第七節 附則

第四百十一條 此ノ勅令施行ノ時期ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム(三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第九十八條ヲ第九十九條ニ改メ第九十九條ヲ第四百十一條ニ改メ)

十二條

第百十二條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ區ト爲ス地ハ「拓殖務大臣」之ヲ指定ス

第百十三條 此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選舉スルニ付區長及區會ノ職務並區條例區規則ヲ以テ定ム

ヘキ事項ハ北海道廳長官又ハ其ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ (三十二年勅令第三百七十八號ヲ以テ第百條ヲ第百十三條ニ改メ同)

第百十四條 此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク (三十二年勅令第

百十四條以下第百十四條ニ改メ以下順次繰下ク)

第百十五條 現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セズ

第百十六條 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田

兵服役期限中及滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セズ

第百十七條 此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣之ヲ告示ス

第百十八條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」之ヲ定

ム

○北海道區制、一級町村制施行期日 明治三十年六月拓殖務省令第七號

本年勅令第百五十八號北海道區制ハ明治三十年十月一日ヨリ同勅令第百五十九號北海道一級町村制ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

但シ區制及一級町村制施行ノ地ハ追テ之ヲ指定ス

○北海道區制、一級町村制施行期日延期ノ件 明治三十年九月內務省令第二十五號

本年拓殖務省令第七號勅令第百五十八號北海道區制及同第百五十九號北海道一級町村制施行ノ期日ヲ延期ス

○北海道區制施行期日ノ件 明治三十二年八月內務省令第四十四號

北海道區制明治三十二年十月一日ヨリ施行ス但シ其ノ施行ノ地ハ追テ指定ス

○北海道區制一級町村制二級町村制ニ於テ議員選舉員數ヲ定ムル標準人

口調査告示ノ件 明治三十年六月拓殖務省令第八號

北海道區制第百一條北海道一級町村制第百九條北海道二級町村制第百二條最終ノ人口ハ毎年十二月末日調査ノ現在數ニ依リ官報ヲ以テ之ヲ告示ス但告示ノ後區町村ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界ヲ變更スルトキハ次回ノ告示ヲ爲ス迄ノ間其ノ處分ヲ爲シタル當時ノ調査ニ依ルモノトス

○北海道區制施行ニ付必要事項ノ件 明治三十二年九月內務省令第四十五號

初メテ北海道區制ヲ施行スルニ付必要ナル事項ヲ定ムル左ノ如シ

第一條 區制施行ニ際シ區長就職スルニ至ルマテ北海道廳長官ハ所部ノ官吏ヲ指命シ其ノ事務取扱ヲ

北海道區制一級町村制施行期日延期ノ件 北海道區制施行期日ノ件 三百九十一  
北海道區制一級町村制二級町村制ニ於テ議員選舉員數ヲ定ムル標準人口調査告示ノ件

爲シムヘシ

第二條 北海道廳長官ノ指命スル官吏ニシテ區ノ事務ニ付出張スル旅費ハ區ノ負擔トス

第三條 區制施行ノ日ヨリ區稅徵收ニ至ルマテ其ノ區必要ノ費用ハ其ノ事務取扱者ニ於テ豫算ヲ設ケ北海道廳長官ノ認可ヲ經テ假ニ區稅ヲ徵收シ又ハ前區町村ノ引繼金若ハ一時ノ借入金ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 前條ニ依リ假徵收ヲナシタル區稅ハ追テ區會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上區稅各納人ニ對シ差引徵收ヲナシ前區町村ノ差繼金ヲ使用シ一時ノ借入金ヲナシタル場合ハ該年度ニ於テ新ニ徵收シタル區稅ヲ以テ之ヲ返償スヘシ

第五條 支廳長官長ニ於テ取扱ヒタル一切ノ金穀並ニ會計帳簿ノ類ハ其ノ金穀ノ種類及所屬年度ヲ區別シタル明細書ヲ製シ之ヲ引繼クヘシ但シ一町村ヲ分割シタル場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルトキハ其ノ人口段別等ヲ標準トシ其ノ多キ部分ノ分屬シタル區町村ニ於テ之ヲ引受クヘシ其ノ引受ヲナシタル區町村ハ他ノ關係區町村ニ對シ閱覽ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條 支廳長官長ニ於テ未タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其ノ引繼ヲ受ケタル區長ニ於テ其ノ精算ヲナシ區會ニ報告スヘシ若殘餘金アルトキハ之ヲ制戻シ不足ヲ生シタルキトハ區會ノ決議ヲ經テ之ヲ追徵補充スヘシ

第七條 區制施行ノ初メニ方リ區役所ノ位置ハ北海道廳長官之ヲ定ムヘシ

第八條 區制施行ニ際シ初メテ區ノ公告式ニ關スル區規則ヲ公告スル方法ハ北海道廳長官之ヲ定ム

○北海道區制施行地指定 明治三十二年九月内 務省令第四十六號

名 稱	區	域
北海道區制第百十二條ニ依リ區制施行地ヲ左ノ通指定ス但シ現在ノ町村名ハ大字トシテ之ヲ存ス	札 幌 區	札 幌 區
函 館 區	函 館 區	函 館 區
小 樽 區	小樽郡ノ内	小樽郡ノ内
	若竹町 勝内町 潮見臺町 新富町 眞榮町	若竹町 勝内町 潮見臺町 新富町 眞榮町
	川原町 高砂町 土場町 芝居町 新地町	川原町 高砂町 土場町 芝居町 新地町
	金曇町 龍徳町 若松町 開運町 信香裏町	金曇町 龍徳町 若松町 開運町 信香裏町
	信香町 山上町 有幌町 量徳町 住ノ江町	信香町 山上町 有幌町 量徳町 住ノ江町
	永井町 花園町 山田町 曙町 入船町	永井町 花園町 山田町 曙町 入船町
	港町 堺町 住初町 相生町 沙崎町	港町 堺町 住初町 相生町 沙崎町
	奥澤村 手宮町 稻穂町 手宮裏町 南濱町	奥澤村 手宮町 稻穂町 手宮裏町 南濱町
	色内町 手宮町 稻穂町 手宮裏町 南濱町	色内町 手宮町 稻穂町 手宮裏町 南濱町
	北濱町 高島村ノ内字 高島村ノ内字 廣	北濱町 高島村ノ内字 廣
	龜田郡ノ内	龜田郡ノ内
	字村内 字大川通ノ内 字五稜廓通 字陣屋通 字千代ヶ岱	字村内 字大川通ノ内 字五稜廓通 字陣屋通 字千代ヶ岱
	字湯川通 字柏野 字十文字 字村内川東 字万年橋	字湯川通 字柏野 字十文字 字村内川東 字万年橋
	字コミ川ノ内 字有川通ノ内 字札幌通 字八幡社後手 字田家ノ内	字コミ川ノ内 字有川通ノ内 字札幌通 字八幡社後手 字田家ノ内
	字六軒家ノ内 字銀冶村通内 字前濱 字万年橋脇	字六軒家ノ内 字銀冶村通内 字前濱 字万年橋脇

北海道區制ニ依ル會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則準用ノ件  
北海道區公民名譽職ヲ擔任セス又ハ執行セサル者處分ノ件

三百九十四

○北海道區制ニ依ル會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則準用ノ件 明治三十三年

九月內務省令  
第四十九號

北海道區制第七十一條及北海道一級町村制第七十一條ニ依ル會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則ハ  
明治二十九年三月三日内務省令第三號ヲ準用ス(三十三年五月內務省令第二十四號ヲ以テ第七十一條ノ下ニ及北海道一級町村制第七十一條ヲ加フ)

○北海道區公民名譽職ヲ擔任セス又ハ執行セサル者處分ノ件 明治三十二年九月

號十

北海道區制第五條ニ依リ區公民ニシテ名譽職ヲ擔任セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ヲ定ムル左ノ如シ

第一條 區公民ニシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ名譽職ヲ少クトモ三年間擔任セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ區會ノ議決ニ依リ北海道廳長官ノ認可ヲ經六年以内區公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年期間以内他ノ住民ノ負擔スヘキ區稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ノ區稅ヲ增加スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル者ハ前條ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 業務ノ爲常ニ區内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齡六十歳以上ノ者

- 四 官職ノ爲公務ヲ執ルコトヲ得サル者
  - 五 規定ノ任期間區ノ名譽職ニ在リ爾後其ノ任期ニ相當スル年數ヲ經過セサル者又ハ無任期ノ名譽職ヲ三年以上擔任シ爾後其ノ擔任シタル年數ヲ經過セサル者
  - 六 其ノ他區會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認めタル者
- 第三條 北海道廳長官ニ於テ第一條ノ議決ヲ認可スヘカラスト認めタルトキハ之ヲ再議ニ附シ猶其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

○北海道區制第百十七條直接稅間接稅ノ類別 明治三十二年九月內務省告示第九十六號

北海道區制第百十七條直接稅間接稅ノ類別ハ左ノ諸稅ヲ以テ直接稅トシ其ノ他ハ間接稅トス但シ各區ニ於テ特ニ徵收スルモノハ北海道廳長官ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其ノ直接稅トスヘキモノハ北海道廳長官ヲシテ管内ニ告示セシム

國稅	區稅
所得稅 所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク	營業稅 北海道水產稅 北海道地
地租	
方稅	
直接國稅ノ附加稅	段別割

○北海道一級町村制 明治三十年五月勅令第百五十九號

北海道區制第百十七條直接稅間接稅ノ類別

三百九十五

三十三年勅令第五十一號  
以北海一級町制  
道ヲ中級町  
村ヲ中級町  
拓殖務大臣  
臣ヲ内務大臣  
ニ郡長  
ヲ北海  
道廳支廳  
長ニ改

北海道一級町村制

朕北海道一級町村制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道一級町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第三款 町村條例及町村規則

第二章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織及選任

第二款 町村吏員ノ職務權限

第三款 給料及給與

第三章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 町村ノ財務

第一款 町村有財產及町村稅

第二款 町村ノ歲入出豫算及決算

第五章 町村內一部ノ行政

第六章 町村組合

第七章 町村行政ノ監督

第八章 附則

北海道一級町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ北海ニ於テ一級町村ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條 町村ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍內ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ町村ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條 町村ノ應置分合ヲ要スルトキハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受テ北海道廳長官之ヲ定ム

町村ノ境界若クハ名稱ヲ變更シ又ハ町ヲ村ト爲シ村ヲ町ト爲スコトヲ要スルトキハ北海道廳長官之ヲ定ム但シ境界ノ變更ニシテ郡若クハ區ノ境界ニ涉ルモノハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クヘシ

本條ノ處分ニシテ郡ノ境界ニ涉ルモノアルトキハ郡ノ境界モ又自ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付キ財產處分ヲ要スルトキハ關係アル區會及町村會ノ意見ヲ聞キ北海道廳長官之ヲ定ム

町村ノ境界明ナラサルコトアルトキハ北海道廳長官之ヲ定ム但シ郡若クハ區ノ境界ニ涉ル場合ニ於テハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第四條 町村內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ町村住民トス

町村住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ町村有財產並町村ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子三年以來(一)町村ノ住民ト爲リ(二)町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)町村內ニ於テ地租年額四十錢以上ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納メ若クハ耕地

北海道一級町村制



宅地三町歩以上ヲ所有スル者ハ町村公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ經テ「郡長」ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ

町村ノ負擔ヲ分任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項(二)ノ要件ヲ缺クト雖其ノ他ノ要件ヲ具備スル者ハ町村公民トス

町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ町村會ノ議決ニ依リ六年以内町村公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ町村稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ増加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條 町村公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス  
町村公民タル者停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニアル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラルトキモ亦同シ

町村公民ニ限リテ任ヌヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキ又ハ第五條第五項ニ依リ公民權ヲ停止セラレタルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタル爲公民權ヲ有スル職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ本項追加)

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ有給吏ニ對シテハ併セテ給料ヲ支給セサルコトヲ得(上全)

第三款 町村條例及町村規則

第七條 町村ハ町村住民ノ權利義務及町村ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村有財產及町村ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

町村條例及町村規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織及選任

第八條 町村ニ町村長及助役各一名ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

町村長及助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ本條改正)

第九條 町村長及助役ハ町村會之ヲ選舉シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ若其ノ認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲スヘシ(上全)

町會ニ於テ町村長及助役ヲ選舉セス又ハ其ノ再選舉ニシテ仍認可ヲ得サルトキハ更ニ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間北海道廳長官ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十條 其ノ町村公民ニ非サル者ト雖町村長又ハ助役ニ選任セラル、コトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職ノ期間ヲ限リ其ノ町村公民權ヲ有ス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第九條ノ次へ本條以下第十六條マテヲ追加ス)

第十一條 町村長及助役ハ第四十二條第二項ニ掲載スル職ヲ兼スルコトヲ得ス  
父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ町村長トノ間ニ其ノ縁故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ助役トノ間ニ其ノ縁故アル者町村長ノ任ヲ受クルトキハ助役ハ其ノ職ヲ失フモノトス助役數名アル場合ハ第四十二條第四項ノ例ヲ適用ス

第十二條 町村長及助役ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ營業其ノ他報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十三條 町村長及助役ハ町村會ノ同意ヲ得北海道廳長官ニ申請シ其ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルニトヲ得ス但シ任意ニ退職ノ申請ヲ爲シタル後三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 町村ニ收入役一名ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ收入役代理者一名ヲ置クコトヲ得  
收入役及收入役代理者ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ  
收入役及收入役代理者ニ關シテハ第八條第二項及第九條乃至第十三條ノ例ヲ適用ス

町村長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟ノ縁故アル者ハ之ト同時ニ收入役又ハ收入役代理者タルコトヲ得ス若シ收入役又ハ收入役代理者トノ間ニ其ノ縁故アル者町村長又ハ助役ノ任ヲ受クルトキハ其ノ縁故アル收入役又ハ收入役代理者ハ其ノ職ヲ失フ

第十五條 町村長助役共ニ故障アルトキ又ハ收入役收入役代理者共ニ故障アルトキハ北海道廳長官ハ第九條第二項ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第十六條 町村ニ書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス其ノ人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ町村長之ヲ任免ス

第十七條 町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分テ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第十條第十七條ニ改ム)  
部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

第十八條 町村ハ町村規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得  
委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會議員若クハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ町村會議員及町村公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ町村長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ書記ヲ助役ト改ム)  
委員ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

第十九條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セララルコトヲ得(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ本條追加)  
第二款 町村吏員ノ職務權限

第二十條 町村長ハ町村ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス  
町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第十二條第二十條ニ改ム)  
一 町村會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事  
二 町村有財產及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

- 三 町村ノ權利ヲ保護スル事
- 四 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 五 町村吏員ヲ監督シ其ノ任免ニ係ル町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第五號中改正)
- 六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シ町村ヲ代表シ及町村ノ名義ヲ以テ他應若クハ一個人ト交渉スル事
- 八 法律命令若クハ町村會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料及町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

九 其ノ他法律命令者クハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第二十二條 町村長ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ町村ニ關スル國ノ行政事務ヲ掌ル

前項ノ事務ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ記載スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第十條以下第十六條迄順次線下ク)

第二十二條 町村若クハ監督官廳ニ於テ町村長ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ヨリ「郡長」ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ又前項取消ニ不服アル町村會ハ「郡長」ニ訴願スルコトヲ得

前項「郡長」ノ決定若クハ裁決ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ

不服アル町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ヨリ「郡長」ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ其ノ「郡長」ノ決定ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ決定若クハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 町村會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ「郡長」ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ「郡長」ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項「郡長」ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 町村會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ町村長ハ「郡長」ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第二十五條 第六十六條但書若クハ第六十八條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第二十六條 町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得(三十二年勅令第五十一號以下四條ヲ加フ)

第二十七條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得北海道廳支廳長ノ許可ヲ經テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第二十八條 收入役ハ法律命令中別段ノ規定アルモノノ外町村ノ出納其ノ他會計事務並第二十一條ニ依ル國ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

收入役代理者ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ收入役及村會ノ同意ヲ得テ收入役代理者ヲシテ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

收入役代理者ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

第二十九條 書記其ノ他ノ附屬員ハ町村長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三十條 部長及其ノ代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第二十九條ヲ改ム)

第三十一條 委員ハ町村長ノ監督ニ屬シ町村ノ財產若クハ町村ノ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依ル事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第三十二條 町村役場及町村吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ「郡長」之ヲ定ム  
町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第三十三條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外町村會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ「郡長」ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 町村長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ北海道廳支廳長之ヲ定ム(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第二十四條ヲ改ム)

本條ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村規則ヲ以テ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

町村條例ヲ以テ有給吏員ノ退職料退職給與金及遺族扶助料ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條 有給吏員ノ給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料其ノ他第三十三條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ「郡長」ニ訴願シ其ノ「郡長」ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第二十五條ヲ改メ修正ス)

第三十六條 給料旅費退職料退職給與金遺族扶助料報酬辨償等ハ町村ノ負擔トス(三十二年勅令第五十六條ヲ第三十六條ニ改メ條中加除)

第三章 町村會

第一款 組織及選舉

第三十七條 町村會議員ハ町村ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員左ノ如シ  
勅令第五十一號ヲ以テ第二十七條ヲ第三十七條ニ改ム

- 一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員十六人
- 一 人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員二十人
- 一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員二十四人

前項ノ定員ハ町村規則ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第三十八條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス  
(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ) (第二十八條ヲ第三十八條ニ改ム)

直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク直接町村稅ヲ納ムル三名ノ中一名ヨリモ多キトキハ町村住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ町村住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 選舉人ハ分テ三級トス  
(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第二十九條ヲ第三十九條ニ改メ未項追加)  
選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ町村內ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テ

シ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級內ノ者ニ限ラサルモノトス

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ本條ノ選舉等級ヲ設ケス

第四十條 區域廣濶又ハ人口稠密ナル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲之ヲ設クルモ妨ケナシ  
(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ) (第三十條ヲ第四十條ニ改ム)

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

分會ハ本會ト同日ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第四十一條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得  
(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ) (第三十一條ヲ改ム)

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ町村內ニ住居ヲ占メサル者ハ直接町村稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區內ノ者ニ限ラサルモノトス

第四十二條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第三十二條ヲ第四十二條ニ改メ條中改正)

- 一 北海道廳ノ官吏
- 二 其ノ町村ノ有給吏員
- 三 檢事警察官吏及收稅官吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ  
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長又ハ助役トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長又ハ助役ノ任ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第四十三條 町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第三十三條ヲ第四十三條ニ改メ條中改正)

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日選舉ノ數日ニ亘ル又ハ定期改選期日選舉ノ數日ニ亘ルヨリ起算シ曆ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部

若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セララルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス  
退職ノ議員ハ再選セララルコトヲ得  
議員ニ關シテハ第三十三條第一項第三十五條第三十六條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 町村會議員中議員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員三分ノ一以上議員アルトキ又ハ町村會町村長若ハ北海道廳支廳長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ補闕選舉ヲ行フヘシ(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第三十四條ヲ第四十四條ニ改メ條中改正)  
補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス  
定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 區町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ毎選舉區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第三十五條ヲ第四十五條ニ改メ以下第二十八條迄順次繰下ク)  
選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ「郡長」ニ訴願シ其ノ「郡長」ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分、決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス  
町村長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ

行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名稱ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス但シ名稱確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第四十六條 選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並毎選舉區及每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第四十七條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クルトキハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第四十八條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス(三十二年勅令第五十九條ヲ第四十九條ニ改正) 町村住民ニ非スシテ第三十八條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フトコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封

緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第五十條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第四十條ヲ第一號ニ改正) 以下第四十八條迄順次繰下ク

- 一 氏名ヲ記載セサルモノ
- 二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラズ

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第五十一條 町村會議員ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第五十二條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ頭末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第五十三條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立サル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉録ノ寫ヲ添ヘ之「郡長」ニ報告スヘシ

第五十四條 選舉人選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ「郡長」ニ「郡長」ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

「郡長」ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ

前項「郡長」ノ處分ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第五十五條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事

ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 選舉若クハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第五十七條 町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

町村長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ「郡長」ニ申出ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ「郡長」ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス

前項「郡長」ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第五十八條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第五十九條 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ  
一 町村條例及町村規則ヲ設定スル事  
二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ國ノ行政事務ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス  
三 歳入出豫算ヲ定ムル事  
四 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料町村税及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事  
五 町村有不動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事



六 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事  
 七 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事  
 八 町村有財産及町村ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事  
 九 町村吏員ノ身元保證ヲ徵シ並其ノ額ヲ定ムル事  
 十 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事  
 其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第六十條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告書ヲ請求シテ事務ノ管理  
 議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ検査スルコトヲ得  
三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第五十條ヲ  
 六十條ニ改メ以下六十八條迄順次繰下ク  
 町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立  
 會ノ上關係書類並金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得  
 町村會ハ町村長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第六十一條 議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第六十二條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス  
 町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選舉スヘシ  
 議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其  
 ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選舉ハ總選舉ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初  
 會ニ於テ之ヲ行フ

第六十三條 議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ

年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選舉スルモ妨ナシ

第六十四條 町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議  
 員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第六十五條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求  
 アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ  
 町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第六十六條 町村會ハ議員定員ノ半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件  
 ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半数ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條 町村會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ所ル

第六十八條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ  
 承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第六十九條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求ア  
 リタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第七十條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第七十一條 會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シ  
 タル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過急金ヲ科スル規程ヲ設  
 クルコトヲ得

第七十二條 前條ニ依リ「拓殖務大臣」ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

町村會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第七十三條 町村會ノ書記ハ町村吏員ノ中ニ就キ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隸屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シテ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章 町村ノ財務

第一款 町村有財產及町村稅

第七十四條 町村ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 町村有財產ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接

ノ公用若クハ町村住民ノ直接ノ共用ニ供シタル町村有財產ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ抵觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 町村有財產ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十七條 町村有財產ノ賣却貸與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價格其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 町村ハ其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セララルル支出ヲ負擔スル義務アリ

勅令第五十一號ヲ以テ第六十九條ヲ第七十九條ニ改メ條中改正

町村ハ町村有財產ヨリ生スル收入使用料手数料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十條 町村ハ町村有財產若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十一條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス

特別税ハ別ニ町村限リ税目ヲ設ケ課税スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス  
第八十二條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別税ニ關スル細則ハ町村條例又使用料手数料ニ  
關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十三條 町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘ  
タル初若クハ滞在ノ初ニ遡リ町村税ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ス又三箇月以上町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖町村内ニ於テ土地  
家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ或ル行爲  
ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムル義務アル  
モノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條 所得税ノ附加税ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課スルトキハ納税義務者ノ町村  
外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得  
ハ之ヲ控除スヘキモノトス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第七十  
四條ヲ第八十四條ニ改メ末項ヲ追加ス)  
數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村  
ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課税スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ  
此ノ限ニ在ラス

數市區町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業税ノ附加  
税ヲ賦課スルトキハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ本税額ヲ各市區町村ニ分割シテ其ノ一部ニノミ  
賦課スヘシ

第八十五條 所得税法第五條ニ掲グル所得ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス(三十三年勅令  
以テ第七十五條ヲ第八  
十五條ニ改メ條中改正)

三十二年  
法律第十  
七號ヲ以  
テ所得税  
法改正ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體  
ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ設置ニ係リ學藝美術慈善ノ  
用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ  
得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ對シテハ第二百二十二條ニ  
掲グル期間中ハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ  
皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第八十六條 町村有財産ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル  
者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財産ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得(三十三年勅令  
以テ第七十六條ヲ第八十六條ニ改  
メ以下第七十八條迄順次繰下ク)

第八十七條 町村住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコト  
ヲ得

町村ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部  
内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部  
内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ  
收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ  
第八十八條 地租ノ附加税ハ其ノ納期ヲ定メ納期納期ノ數日ニ亘ルニ於ケル土地臺帳ノ記者ヨリ徵  
場合ハ其ノ末日

收スルモノトス但シ賃入ノ土地ニ對シテハ賃取主ヨリ徵收スルモノトス  
地租ノ附加税ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若ク  
ハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地租ノ目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其  
ノ月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得税ノ附加税ハ本税ノ納期ニ於テ本税ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス  
本條ニ規定スルモノヲ除外附加税徵收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十九條 町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工  
ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス(三十二年勅令第五十一號ヲ以テ第七  
十九條ヲ第八十九條ニ改メ條中改正)

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除外直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接  
國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ  
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役  
現品ハ急迫ノ場合ヲ除外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九十條 町村ニ於テ徵收スル使用料加入金手数料町村稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他町村ノ公法上  
ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ處分スヘ  
シ其ノ督促及手数料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得(三十二年勅令第五  
十條ニ改メ以下)  
第九十條迄順次繰下ク  
納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ  
得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル  
本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第九十一條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ  
受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得  
町村有財產若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ  
得

本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ「郡長」ニ訴願シ其ノ「郡長」ノ裁決  
ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴ス  
ルコトヲ得  
本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ町村ノ永久ノ利益  
ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り  
町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ  
經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルト  
キモ亦同シ

町村債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年年ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ  
還了スルヲ以テ常例トス  
町村債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ町村經常支出既往三年起債ノ都度其ノ前平均額ノ三分ノ一ヲ超過  
セサルヲ限度トス

町村ハ債券ヲ發行スルコトヲ得ス  
豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘ  
シ

キモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第九十三條 町村長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第九十四條 町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十五條 豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ町村會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ「郡長」ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第九十六條 豫算ノ議決ヲ經タルトキハ町村長ヨリ其ノ原本ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ町村長ノ命令アルニ非ツレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス町村長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ナキカ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第九十七條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査ヲ行ヒ又毎年少クトモ一回臨時検査ヲ行フヘシ

検査ハ町村長若クハ其代理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ町村會ノ選舉シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第九十八條 町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ「郡長」ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章 町村内一部ノ行政

第九十九條 町村内ノ一部ニシテ所得財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

第一百條 前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道官廳長官之ヲ定ム

第六章 町村組合

第一百一條 「郡長」ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得

「郡長」ハ前項ノ許可ヲ受クルニハ組合會議ノ組織事務ノ管理方法及費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併セテ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第百二條 町村組合ハ法人トス

町村組合ニ就テハ町村ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ前條ノ組合規程ニ之ヲ規定スヘシ

第百三條 町村組合ハ「郡長」ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サルハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

第百四條 一級町村ト二級町村トノ組合ニ關シテモ亦本章ノ例ヲ適用ス但シ内務大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百五條 町村行政ハ第一次ニ於テ「郡長」之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ於テ「拓殖務大臣」之ヲ監督ス

第百六條 此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百七條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ

監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第百十八條 「郡長」ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ

支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項「郡長」ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第百九條 町村會ノ解散ハ「拓殖務大臣」之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

「郡長」ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第百十條 町村條例ノ設定ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第百十一條 左ニ掲クル事件ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第百十二條 左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村規則ヲ設定スル事

二 使用料手数料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

四 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

- 五 各種ノ保證ヲ與フル事
- 六 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事
- 七 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 八 第八十六條第八十七條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
- 第九 左ニ掲クル事件ハ「郡長」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第百三十三條ヲ第百十三條ニ改メ條中改正)

- 一 町村有不動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事
- 二 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
- 三 第八十九條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第百十四條 北海道廳長官「郡長」ハ町村長助役收入役收入役代理者部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ郡長ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フモノトス

隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ本條解職ノ處分ニ不服アル者ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第百十五條 町村吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタルコトアルカ爲町村ニ對シテ賠償スヘキコトアルトキハ北海道廳支廳長之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ訴願ヲ爲シタルトキハ北海道廳支廳長ハ假ニ其ノ財産ヲ差押フルコトヲ得(三十三

三年勅令第五十一號ヲ以テ本條追加

第八章 附則

第百十六條 此ノ勅令施行ノ時期ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ)

第百十七條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ一級町村ト爲ス地ハ「拓殖務大臣」之ヲ指定ス(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ)

(第百十六條ヲ第百十七條ニ改ム)

第百十八條 此ノ勅令ニ依リ初メテ町村會成立シ及町村吏員就職ニ至ルノ間其ノ職務並町村條例町村規則ヲ以テ定ムヘキ事項ハ北海道廳長官ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ(三十三年勅令第百十七條ヲ本條ノ如ク改正)

第百十九條 此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官應ノ職務權限等ニ關シ「拓殖務大臣」ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得(三十三年勅令第五十一號ヲ以テ第百十九條ニ改メ以下順次繰下)

第百二十條 此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク

第百二十一條 現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス

第百二十二條 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田兵服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第百二十三條 此勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣之ヲ告示ス

第百二十四條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

○北海道一級町村制施行期日及實施地  
 明治三十三年五月  
 北海道一級町村制明治三十三年七月一日ヨリ施行ス其實施地ハ左ノ通り指定ス但現在ノ町村名ハ大字  
 トシテ之ヲ存ス

町村名	所屬郡名	區	域
大野村	龜田郡	大野村	本郷村 市渡村 文月村 千代田村 一本木村
上磯村	上磯郡	上磯村	清川村 中野村 谷好村 富川村
福山町	松前郡	總社堂町 生符町 白川町 愛宕町 西館町 博知石町 唐津内澤町 唐津内町 新荒町 湯殿澤町 小松前町 松城町 大松前町 枝ヶ崎町 中町 袋町 横町 藏町 中川原町 川原町 神明町 馬形上町 馬形中町 馬形下町 端立町 東上町 東中町 東下町 東新町 泊川町 寅向町 傳治澤町 山ノ上町 及部町	
福島村	松前郡	白符町	福島村
江差町	檜山郡	東新町 北新町 中新町 川原新町 片原町 詰水石町 豐部内町 九艘川町 中歌町 姥神町 津花町 濱茂尻町 酒田町 新地裏町 新地町 法華寺町 上野町 佐平治町 彌陀堂町 切石町 影ノ町 澤茂尻町 中茂尻町 小平澤町 碓町 寺小屋町 五勝手村	

壽都町	壽都郡	六條町	岩崎町 開進町 渡島町 新榮町 大磯町 矢追町
岩内町	岩内郡	御鉾内町 稻穂崎町 橘町 吹上町 堀江町 三島町 鷹臺町 老古美村ノ一部 西南野東川ヲ限リ東ハ岩内市街ト梨野舞納村トノ境界線ニ從ヒ直線ニ南ニ延ビ野東川ニ至ル	
余市町	余市郡	濱中町 澤町 富澤町 中町 梅川町 琴平町 山白町 黒川村 山田村 春部村 大川町 沖村	
岩見澤村	空知郡	岩見澤村ノ一部	石狩川幌向川ノ落合ヨリ月形道路ト其道路(字ナカコヤ)ヲ横流スル美唄川支流ノ交叉點ニ向ヒ直線ヲ以テ之ヲ限リ其ノ南方ノ一圓トス
増毛町	増毛郡	辨天町 稻葉町 野塚町 永壽町 七源町 島中町 暑塞町 暑塞裏町 島中裏町 阿分村 倉熊村 増毛村 別蒔村 岩尾村 暑塞澤村	
稚内村	宗谷郡	稚内村	抜海村 磔間村
室蘭町	室蘭郡	札幌通 西小路町 澤町 幕西町 常盤町 濱町 本町 繪柄村 千歳町 海岸町	
伊達村	有珠郡	有珠村	稀府村 東紋籠村 西紋籠村 長流村 黄金葉村
釧路町	釧路郡	米町	眞砂町 浦見町 幣舞町 洲崎町 釧路村 桂懸村
厚岸町	厚岸郡	澗月町	松葉町 梅香町 若竹町 奔渡村 眞龍村 苦多村



北海道一級町村制實施ニ付事務取扱ニ關スル件  
 北海道一級町村制第五條ニ依ル町村公民ニシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ執行セ  
 サル者ニ對スル處分方ニ關スル件

四百三十

根室町	根室郡	本町	花咲町	梅ヶ枝町	綠町	常盤町	彌生町	有磯町
		光和町	松ヶ枝町	清隆町	千島町	彌榮町	平内町	琴平町
		定基町	鳴海町	松本町	辨天町	沙見町	根室村	
		穗香村ノ一部	字キナトエ					
		花咲村	友知村ノ一部	オノチトウ沼	ヨリ南タカ川	及北ノツカマ		
				ツブ川	ヲ遡リ郡界ニ至ル	直線ヲ限リ西一圓		

○北海道一級町村制實施ニ付事務取扱方ニ關スル件 明治三十三年五月内 務省令第二十三號

北海道一級町村制實施ニ付事務取扱方ニ關シテハ明治三十二年九月内務省令第四十五號第二條乃至第八條及明治三十三年三月内務省令第八號ヲ準用ス但シ明治三十二年九月内務省令第四十五號第三條中ノ北海道廳長官ハ北海道廳支廳長トス

○北海道一級町村制第五條ニ依ル町村公民ニシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ執行セサル者ニ對スル處分方ノ件 明治三十三年五月内 務省令第二十七號

北海道一級町村制第五條ニ依ル町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔任セヌ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則

ハ明治三十二年九月内務省令第五十號ヲ準用ス

○北海道二級町村制 明治三十年五月 勅令第六十號

朕北海道二級町村制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道二級町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第三款 町村條例及町村規則

第二章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織及任用

第二款 町村吏員ノ職務權限

第三款 給料及給與

第三章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 町村ノ財務

第一款 町村有財產及町村稅

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第五章 町村内一部ノ行政

第六章 町村組合

第七章 町村行政ノ監督

第八章 附則

北海道二級町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ北海道ニ於テ二級町村ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條 町村ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ町村ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條 一級町村制第三條ハ二級町村ニ關シ之ヲ適用ス

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第四條 町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ町村住民トス

町村住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ町村有財產並町村ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子三年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)町村内ニ於テ地租年額三十錢以上ヲ納メ若クハ直接國稅年額一圓五十錢以上ヲ納メ若クハ耕地宅地三町歩以上ヲ所有シ若クハ各納稅人ノ直接町村稅平均納額以上ノ直接町村稅ヲ納ムル者ハ町村公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得

此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ  
町村ノ負擔ヲ分任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項(二)ノ要件ヲ缺クト雖モ其ノ他ノ要件ヲ具備スル者ハ町村公民トス

町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ町村會ノ議決ニ依リ六年以内公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同期間他ノ住民ノ負擔スヘキ町村稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條 町村公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス

町村公民タル者公權停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第七條 町村ハ町村住民ノ權利義務及町村ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設クルコトヲ得  
町村ハ町村有財產及町村ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス  
町村條例及町村規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ム

一

第二章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織及任用

第八條 町村ニ町村長書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス

町村長ハ毎町村若クハ町村組合ニ一名トシ書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム

町村長ハ北海道廳長官之ヲ任免シ書記ハ郡長之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ町村長之ヲ任免ス

第九條 町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分チ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

部長及其代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選舉權ヲ有スル町村公民ノ中ニ就キ町村長之ヲ任免ス

第十條 町村ハ町村規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會議員若クハ町村公民選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ町村會議員及町村公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ町村長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ郡長之ヲ任免ス

委員ノ組織等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ノ組織等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ノ組織等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

第二款 町村吏員ノ職務權限

第十一條 町村長ハ町村ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事

二 町村有財產及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 町村ノ權利ヲ保護スル事

四 町村ノ歳入ヲ管理シ町村ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ處理スル事

五 町村吏員ヲ監督シ書記委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及五

圓以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ及町村ノ名義ヲ以テ他應若クハ一個人ト交渉スル事

八 法律命令若クハ町村會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 町村條例及町村規則ヲ設定スル事

十 町村營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十一 其他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第十二條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察官ノ職務

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但シ別ニ吏員ノ設アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第十三條 町村長若クハ監督官應ニ於テ町村會ノ議決其ノ權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ

害アリト認ムルトキ又ハ町村會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ町村長若クハ監督官應

ニ於テ町村會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ郡長ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第十四條 町村會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ町村長ハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第十五條 第五十二條但書若クハ第五十四條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十六條 書記ハ町村長ノ命令ヲ承ケ國ノ行政及町村ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス

町村長故障アルトキハ上席書記國ノ行政及町村ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

第十七條 部長及其ノ代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス

第十八條 委員ハ町村長ノ監督ニ屬シ町村有財産若クハ町村ノ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第十九條 町村役場及町村吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第二十條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外町村會ノ決議ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 町村長及書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 給料旅費報酬辨償等ハ町村ノ負擔トス但シ町村長ノ給料及旅費ハ國庫ヨリ支給ス

第三章 町村會

第一款 組織及選舉

第二十三條 町村會議員ハ町村ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員左ノ如シ

一 人口千五百未満ノ町村ニ於テハ 議員八人

一 人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ 議員十二人

一 人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ 議員十六人

一 人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ 議員二十人

一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員二十四人

前項ノ定員ハ町村規則ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第二十四條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク直接町村稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ

町村住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ町村住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 選舉人ハ分テ二級トス

選舉人中直接町村税ノ多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納税者二名以上アルトキハ町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 區域廣瀾又ハ人口稠密ナル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲之ヲ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十七條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ町村内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ税額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ

滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ税額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依リ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

第二十八條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲タル者ハ被選舉權ヲ有セス

- 一 北海道廳及所屬郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢事及警察官吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

第二十九條 町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級

ノ議員二分シ離キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日 選舉ノ數日ニ亘ル 又ハ定期改選期日 選舉ノ數日ニ亘ルヨリ起算シ曆ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セララルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セララルコトヲ得

議員ニ關シテハ第二十條第一項第三項第二十二條ノ例ヲ適用ス

第三十條 町村會議員中議員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員

三分ノ一以上議員アルトキ又ハ町村長若クハ町村會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト

雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十一條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前四十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ

記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ每選

舉區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ十四日間町村役場ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘ

シ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

町村長ハ前項ノ申立ニ依リ名簿ヲ修正ヲ要スト認ムルトキハ選舉ノ日ヨリ七日前ニ修正ヲ加ヘテ確

定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレタル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十二條 選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並選舉區及

每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十三條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若

クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クル

トキハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十四條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若

クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選

舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

町村住民ニ非スシテ第二十四條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代

理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封

緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十六條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第

六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ

無効トス

- 一 氏名ヲ記載セサルモノ
- 二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラズ

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第三十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第三十八條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉係長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第三十九條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セシ

トスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十條 郡長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ但シ北海道廳長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四十一條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 選舉若クハ當選無効ト爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

町村長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ郡長ニ申立ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ郡長ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス但シ北海道廳長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四十四條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第四十五條 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料町村税及夫役現品ノ賦課徴收ノ法ヲ定ムル事
- 三 町村有不動産ノ賣買交換讓受讓渡並賃入書入ヲ爲ス事
- 四 基本財産及積立金數等ノ處分ヲ爲ス事
- 五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 六 町村有財産ノ管理方法ヲ定ムル事
- 七 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 町村會ハ町村長ノ報告書ヲ請求シテ町村有財産ノ管理並收入支出ノ正否ヲ検査スルコトヲ得

町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類並金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第四十七條 議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第四十八條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス

町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選舉スヘシ

議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日ヤラ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選舉ハ總選舉ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第四十九條 議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第五十條 町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十一條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クとも會議ノ三日前タルヘシ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第五十二條 町村會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非ラサレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十五條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求ア



リタルトキハ傍聴ヲ禁スヘシ

第五十六條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス  
第五十七條 會議及傍聴ノ紀律並取締ニ關スル規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第五十八條 前條ニ依リ「拒殖務大臣」ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聴規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第五十九條 町村會ノ書記ハ町村吏員ノ中ニ就キ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隷屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シテ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章 町村ノ財務

第一款 町村有財産及町村稅

第六十條 町村ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ヲ蓄積セシムルコトヲ得  
臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ム

ルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 町村有財産ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接ノ公用若クハ町村住民ノ直接ノ共用ニ供シタル町村有財産ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ抵觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 町村有財産ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則ノ規程ニ依ルヘシ  
前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徴收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十五條 町村ハ國庫ヨリ支給スルモノヲ除ク外其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ町村有財産ヨリ生スル收入使用料手數料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ課賦徴收スルコトヲ得

第六十六條 町村ハ町村有財産若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使

用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第六十七條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス

特別稅ハ別ニ町村限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス

第六十八條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除外特別稅使用料手數料ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六十九條 町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘ

タル初若クハ滞在ノ初ニ迦リ町村稅ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ヌ又三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖町村內ニ於テ土地

家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村內ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ或ル行爲

ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務アル

モノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 所得稅ノ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課スルトキハ納稅義務者ノ町村外

ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ

之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村

ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課稅スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ

此ノ限ニ在ラス

三十二年  
二月法律  
第十七號  
得稅法  
ヲ以テ所  
正參看  
改

第七十一條 所得稅法「第三條」ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體

ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ

用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ

得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財產ニ關シテハ第四百四條ニ掲ク

ル期間中ハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第七十二條 町村有財產ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル

者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財產ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十三條 町村住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコト

ヲ得

町村ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部

内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部

内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ

收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第七十四條 地租ノ附加稅ハ其ノ納期ヲ定メ納期滿期ノ數日ニ亘ルニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵

收スルモノトス但シ賃入ノ土地ニ對シテハ賃取主ヨリ徴收スルモノトス  
地租ノ附加税ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若ク  
ハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地租目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其  
ノ月ヨリ月割ヲ以テ徴收スルモノトス

所得税ノ附加税ハ本税ノ納期ニ於テ本税ヲ納ムル義務アル者ヨリ徴收スルモノトス

本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加税徴收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

本條ノ例ニ依リ難キ場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十五條 町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納税義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工  
ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ  
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役  
現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十六條 町村ニ於テ徴收スル使用料加入金手数料町村稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他町村ノ公法  
上ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分ス  
ヘシ其ノ督促及手数料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納税義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納税延期ヲ許スコトヲ  
得其ノ年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徴還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第七十七條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納税ノ告知ヲ  
受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

町村有財產若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ  
得

本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不  
服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第七十八條 町村ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ヲ償還スル爲ニ必要ナル場合ニ限り町村債ヲ起  
スコトヲ得其ノ他一般町村制第八十二條第二項乃至第五項ヲ適用ス

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘ  
キモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第七十九條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ  
年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第八十條 町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ  
得

第八十一條 豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ町村會ノ否決シ  
タル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支

出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得  
町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム  
豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告ス  
ヘシ

第八十二條 町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後初回ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要  
領ヲ公告スヘシ

第五章 町村内一部ノ行政

第八十三條 町村内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルト  
キハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部  
會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第八十四條 前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル  
事項ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章 町村組合

第八十五條 郡長ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長  
官ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得

郡長ハ前項ノ許可ヲ受クルニハ組合會議ノ組織費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併テ北海道

廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ又同シ

第八十六條 町村組合ニ就テハ町村ニ關スル規程ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ  
特ニ必要ナル事項ハ前條ノ組合規程ニ之ヲ規定スヘシ

第八十七條 町村組合ハ郡長ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第八十八條 町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ  
於テ「拓殖務大臣」之ヲ監督ス

第八十九條 此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付  
シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ  
監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事  
務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス  
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコ  
トヲ得

第九十一條 郡長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支  
出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項ノ處分ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十二條 町村會ノ解散ハ「拓殖務大臣」之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘ  
シ

郡長ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第九十三條 町村條例ノ設定ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十四條 左ニ掲クル事件ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十八條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 特別税ヲ新設シ若クハ變更スル事
- 三 直接國税二分ノ一ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事
- 四 間接國税ノ附加税ヲ賦課スル事

第九十五條 左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村規則ヲ設定スル事
  - 二 使用料手數料ヲ新設シ若クハ變更スル事
  - 三 道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事
  - 四 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡質入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
  - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
  - 六 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事
  - 七 均一ノ税率ニ依ラスシテ國税ノ附加税ヲ賦課スル事
  - 八 第七十二條第七十三條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
- 第九十六條 左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 町村有不動産ノ賣却交換讓渡並質入書入ヲ爲ス事
  - 二 基本財産及積立金繰等ノ處分ヲ爲ス事

三 第七十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第九十七條 北海道廳長官郡長ハ町村長書記部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ郡長ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第八章 附則

第九十八條 此ノ勅令施行ノ時期ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

第九十九條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ二級町村ト爲ス地ハ「拓殖務大臣」之ヲ指定ス

第一百條 此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選舉スルニ付町村會ノ職務ハ町村長之ヲ行フヘシ

第一百一條 此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官廳ノ職務權

限等ニ關シ「拓殖務大臣」ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第一百二條 此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク

第一百三條 現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス

第一百四條 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田兵

服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第一百五條 此ノ勅令ニ於テ直接税若クハ間接税トスヘキ類別ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣之ヲ告示ス

第一百六條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

○小學校令 三十三年八月勅令 第三百四十四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス  
市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス

第五條 幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ規程ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

第二章 設置

第六條 市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條 郡長ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條 郡長ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數ニ尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタル

トキハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト

二 其ノ町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ委託セシムルコト

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

郡長ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第九條 市立尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事ニ於テ市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ  
町村立尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長ニ於テ町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 第七條又ハ第八條ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメ若ハ其ノ組合ヲ解カシメムトスルトキハ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條ニ依リ郡長ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメムトスルトキハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ  
郡長ハ町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ、兒童教育事務ヲ委託ヲ要

スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ町村內若ハ町村學校組合內ノ一區若ハ數區ニ對シ又ハ町村若ハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區ト爲シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條 府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

第十三條 府縣知事ハ特別ノ事情ニ依リ市立尋常小學校ノ設置又ハ其ノ一部ノ設備ヲ猶豫シ市内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ特別ノ事情ニ依リ町村立尋常小學校ノ設置若ハ其ノ一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ猶豫シ町村若ハ町村學校組合內ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其ノ區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得  
 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得  
 前項ノ町村學校組合ヲ設ケ又ハ之ヲ解カムトスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ  
 郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 私立小學校ノ設置ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ其ノ廢止ハ之ヲ府縣知事ニ届出ツ

第十七條 前三條ノ規定ハ幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ準用ス  
 幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年、三箇年又ハ四箇年トス

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操トス  
 土地ノ情況ニ依リ圖畫、唱歌、手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

第二十一條 高等小學校ニ於テハ理科、唱歌ノ一科目若ハ二科目ヲ闕キ又ハ手工ヲ加フルコトヲ得

第二十二條 高等小學校ニ於テハ唱歌ヲ闕キ又ハ農業、商業、手工ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第二十三條 高等小學校ニ於テハ英語ヲ加フルコトヲ得

第二十四條 高等小學校ニ於テハ英語ヲ加フルコトヲ得

補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條 小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

第二十三條 小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ定メムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村若ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ編纂シタルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員會ノ審査ヲ經テ府縣知事之ヲ探定ス

補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 府縣知事ノ探定シタル教科用圖書ニシテ其ノ一部ヲ修正シ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノハ更ニ審査委員會ノ審査ヲ經ス府縣知事ニ於テ仍探定ノ效力ヲ繼續スルコトヲ得

第二十六條 小學校圖書審査委員會ハ府縣ニ置キ左ニ掲クル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 府縣書記官
- 二 府縣視學官
- 三 專任府縣視學
- 四 師範學校長
- 五 師範學校教諭二名
- 六 府縣立中學校長一名

七 府縣立高等女學校長一名

八 郡視學二名

小學校圖書審査委員會及審査ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十七條 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得

傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ監督官應ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ監督官應ニ届出ツヘシ

第二十八條 小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十九條 小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條 校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ己ムヲ得サル事情ニ依リ監督官應ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第三十二條 兒童滿六歲ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル月以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス



學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第三十三條 學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ亦前二項ニ準ス

第三十四條 第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免セラレタルモノトス

第三十五條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立又ハ府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ兒童就學ニ關シテハ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條 兒童ノ年齢就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第三十八條 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第六章 職員

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、商業又ハ手工ノ一科目若ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ普通免許狀及府縣免許狀ノ二種トス

普通免許狀ハ文部大臣之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

府縣免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ其ノ府縣限リ有效トス

第四十一條 府縣免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十二條 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條 市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

第四十四條 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ町村立小學校長及教員ノ任用ハ郡長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 信用若ハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 費用負擔及授業料

第五十一條 市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

一 設備及其ノ維持ノ費用

二 職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與

三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ負擔トス

第五十二條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合内ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 郡長ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ郡ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘサルトキ

三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十四條 府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ郡又ハ市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 郡ノ資力第五十三條ノ補助ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

二 市ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

第五十五條 區長及其ノ代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者並區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條 小學校教員檢定並小學校教科用圖書審查及府縣免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス  
第五十七條 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラズ

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得  
第五十八條 市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ノ收入トス  
第五十九條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第六十條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條 府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第六十二條 市町村ハ教育事務ノ爲メ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラズ

町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲メ條例ノ規定ニ依リ其ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得  
學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ  
委員教員中ヨリ出シル者ハ市町村長又ハ町村學校組合長之ヲ任免ス

第六十三條 學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十四條 市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第二百二十四條町村制第二百二十八條ノ規定ニ依ル

第六十五條 市立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督シ町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ郡長之ヲ監督ス

第六十六條 私立小學校ニシテ市内ニ在ルモノハ府縣知事之ヲ監督シ町村内ニ在ルモノハ郡長之ヲ監督ス

第九章 附則

第六十七條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第六十八條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

第六十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ得

第七十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學校ニ於テ加設シタル教科目中本令ノ規定ニ牴觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノハ

明治三十三年九月一日ニ於テ現ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得  
明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ體操科ヲ關ケル尋常小學校ニ於テハ明治三十

六年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得  
第七十一條 既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其ノ設備

ヲ猶豫ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ猶豫ノ期間内體操科ヲ闕クコトヲ得

第七十二條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 明治二十六年勅令第四百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三十四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

○小學校令施行規則 三十三年八月 文部省令第十四號

小學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校令施行規則

第一章 教科及編制

第一節 教科

第二節 學年、休業日及式日

第三節 編制

第四節 補習科

第五節 圖書審查及採定

第二章 設備準則

第三章 就學

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第二節 教員ノ免許狀

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第五節 代用教員

第六章 授業料

第七章 學務委員

第八章 代用私立小學校

第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第十章 附則

小學校令施行規則

第一章 教科及編制

第一節 教科

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

道德教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發達ノ程

度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各、適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道徳ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ孝悌、親愛、勤儉、恭敬、信實、義勇等ニ就キ實踐ニ適切ナル近易ノ事項ヲ授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル義務ノ一斑ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取ノ氣象ヲ長シ公徳ヲ尙ハシメ忠君愛國ノ志氣ヲ養ハントコトヲ務ムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ功ヲ堅實ナラシメコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハントニ注意スヘシ

修身ヲ授クルニハ嘉言善行及諺辭等ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシメンコトヲ務ムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ發音ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及近易ナル普通文ニ及ホシ又言語ヲ練習セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ稍、進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習セシムヘシ

讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ各、其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相聯絡セシメンコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ

材料ハ修身、歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取り趣味ニ富ムモノタルヘシ

女兒ノ學級ニ用フル讀本ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ

文章ノ綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書行書ノ一種若ハ二種トス

國語ヲ授クル際ニハ常ニ其ノ意義ヲ明瞭ニシ且既修ノ文字ヲ以テ通常ノ人名、地名等ニ應用セシメ

單語、短句、短文ヲ書取ラシメ若ハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ習熟セシメンコトヲ務ムヘシ

他ノ教科目ヲ授クル際ニ於テモ常ニ言語ノ練習ニ注意シ又文字ヲ書カシムルトキハ其ノ字形及字行ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

第四條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ初ハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方、書キ方及加減乘除ヲ授ケ漸ク其ノ範圍ヲ擴メテ百以下ノ數ニ及ホシ更ニ進ミテ通常ノ加減乘除並ニ小數ノ呼ビ方、書キ方及簡易ナル加減ヲ授ケ漸次本邦度量衡、貨幣及時ノ制ノ大要ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ尋常小學校ニ於テ授ケタル事項ヲ擴メテ學習セシメ漸ク進ミテハ簡易ナル小數、分數及比例ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍、複雑ナル比例及日常適切ノ百分算ニ及ホシ

土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル求積若ハ日用簿記ノ大要ヲ授ケ又ハ之ヲ併セ授クヘシ

算術ハ筆算ヲ用フヘシ土地ノ情況ニ依リテハ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得

算術ヲ授クルニハ理會ヲ精確ニシ運算ニ習熟シテ應用自在ナラシメンコトヲ務メ又運算ノ方法及理

由ヲ正確ニ説明セシメ且暗算ニ習熟セシメンコトヲ要ス

小學校令施行規則

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ナルモノヲ選フヘシ

第五條 日本歴史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

日本歴史ハ建國ノ體制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟國民ノ武勇、文化ノ由來、外國トノ關係等ノ大要ヲ授ケ以テ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ事歴ヲ知ラシムヘシ

日本歴史ヲ授ケタルニハ成ルヘク圖畫、地圖、標本等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ特ニ修身ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス

第六條 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一班ヲ得セシメ又本邦國勢ノ大要ヲ理會セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

地理ハ本邦ノ地勢、氣候、區劃、都會、產物、交通等並ニ地球ノ形狀、運動等ノ大要ヲ理會セシメ又學校ノ修業年限ニ應シ各大陸ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヨリ進ミテ本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ都會、產物等ヲ知ラシメ且本邦ノ政治經濟上ノ狀態並ニ外國ニ對スル地位等ノ大要ヲ授ケヘシ

地理ヲ授ケタルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又地球儀、地圖、標本、寫真等ヲ示シテ確實ナル知識ヲ得セシメ特ニ歴史及理科ノ教授事項ト聯絡セシメンコトヲ要ス

第七條 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一班ヲ得セシメ其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

理科ハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目擊シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ通常ノ物理化學上ノ現象、重要ナル元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身ノ生理衛生ノ大要ヲ授ケ兼テ植物、

動物、礦物ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシムヘシ

理科ニ於テハ務メテ農事、水産、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ特ニ植物、動物等ニ就キ教授スル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授ケタルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメンコトヲ要ス

第八條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得セシメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形體ニ及ボシ時々直線、曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシムヘシ高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ實物若クハ手本ニ就キ又時々自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ土地ノ情況ニ依リテハ簡易ナル幾何畫ヲ授ケルコトヲ得

圖畫ヲ授ケタルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目擊セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハントニ注意スヘシ

第九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得セシメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ譜表ヲ用フルコトナク平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク譜表ヲ用ヒテ單音唱歌ヲ授クヘシ

歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

高等小學校ニ於テハ普通體操ヲ授ケ又遊戯ヲ爲サシメ男兒ニハ兵式體操ヲ加ヘ授クヘシ  
土地ノ情況ニ依リ體操ノ教授時間ノ一部若ハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲ爲サシメ又水泳  
ヲ授クルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ務ムヘシ

第十一條 裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁チ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨  
トス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ運針方ヨリ始メ漸ク簡易ナル衣類ノ縫方ヲ授ケ又便宜通常  
ノ衣類ノ繕ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メ通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方ヲ授ク  
ヘシ

裁縫ハ其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取リ之ヲ授クル際用具ノ使用方、材料ノ品類、性質及衣類ノ保存  
方、洗濯方等ヲ教示スヘシ

第十二條 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
手工ハ紙、絲、粘土、麥稈、木、竹、金屬等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ  
手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類性質等ヲ教示スヘシ

第十三條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨  
トス

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理會シ  
易キ事項ヲ授クヘシ  
水産ヲ加フルトキハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ其ノ土地ノ業務ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其  
ノ知識ヲ確實ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第十四條 商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以  
テ要旨トス

商業ハ學校所在ノ地方ニ於ケル賣買、金融、運輸、保險其ノ他商業ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童  
ノ理會シ易キモノヲ選ヒ國語、算術、地理、理科等ノ教授事項ト關聯シテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿  
記ヲ授クヘシ

第十五條 英語ハ簡易ナル會話ヲ爲シ又近易ナル文章ヲ理解スルヲ得シメ處世ニ資スルヲ以テ要旨ト  
ス

英語ハ發音ヨリ始メ進ミテ單語、短句及近易ナル文章ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方並ニ話シ方ヲ授ク  
ヘシ

英語ノ文章ハ純正ナルモノヲ選ヒ其ノ事項ハ兒童ノ知識ノ程度ニ伴ヒ趣味ニ富ムモノタルヘシ  
英語ヲ授クルニハ常ニ實用ヲ主トシ又發音ニ注意シ正シキ國語ヲ以テ譯解セシメンコトヲ務ムヘシ

第十六條 小學校ニ於テ教授ニ用フル假名及其ノ字體ハ第一號表ニ、字音假名遣ハ第二號表下欄ニ依  
リ又漢字ハ成ルヘク其ノ數ヲ節減シテ應用廣キモノヲ選フヘシ

尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ハ成ルヘク第三號表ニ掲クル文字ノ範圍内ニ於テ之ヲ選フヘシ  
第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ但シ土地ノ情況ニ依  
リ學校長ニ於テ體操ノ每週教授時數中ヨリ一時ヲ減スルコトヲ得

圖畫、唱歌、手工、裁縫ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教  
科目ノ每週教授時數中ヨリ四時以下ヲ減シ之ニ充ツヘシ

半日小學校ノ教科目ノ每週教授時數ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ  
第十八條 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第五號乃至第七號表ニ依ルヘシ  
理科、唱歌ノ一科目若ハ二科目ヲ闕クトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當ス  
ルコトヲ得

手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教  
科目中ノ每週教授時數中ヨリ二時ヲ減シテ之ニ充テ尙不足スルトキハ男子ニ限り每週教授時數ニ二  
時ヲ加ヘ之ニ充ツヘシ

第十九條 前二條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ其ノ事情ヲ具シ府縣知事ノ認  
可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ其ノ時數ヲ増減スルコトヲ得

一 尋常小學校ノ每週教授時數ハ二十八時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス  
但シ半日小學校ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二 高等小學校ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超エ又二十四時ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條 學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各、二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘ  
シ

第二十一條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度  
ニ拘ハラヌ全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フルコト  
ナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者  
ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ  
學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ依  
リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節 學年、休業日及式日

第二十五條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

小學校ノ學期ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十七條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日、大祭日

二 日曜日

三 夏季休業日

四 冬季休業日

五 學年末休業日

六 其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十八條 紀元節、天長節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

一 職員及兒童「君カ代」ヲ合唱スヘシ

二 職員及兒童ハ  
天皇陛下



皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

- 三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
  - 四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス
  - 五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
- 御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク又唱歌ヲ課セサル學校ニ於テハ第一號及第五號ノ式ヲ闕クコトヲ得

第三節 編制

第二十九條 小學校ノ學級數ハ十二學級以下トス

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ二學級以下トシ前項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各十人マテヲ増スコトヲ得

第三十一條 尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

第三十二條 正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル

トキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 修身、體操、唱歌、裁縫又ハ手工ハ數學級ノ一部ノ兒童ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十四條 左ノ各號ニ該當スルトキハ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テハ兒童ヲ二部ニ分チ其ノ一部ノ教授了リタル後他ノ一部ヲ教授スルコトヲ得

- 一 兒童ノ數七十人以上百四十人未滿ニシテ本科正教員一人及准教員一人ヲ置クコト能ハサルト

- 二 兒童ヲ同時ニ容ル、ニ足ルヘキ校舍ノ設ケナキトキ

前項ノ場合ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ各部三時以上トス但シ年少ノ部ニ在リテハ之ヲ二時ト爲スコトヲ得

第三十五條 小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ

小學校ニ於テ各學級ニ置クヘキ本科正教員ヲ得難キトキハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ准教員ハ正教員ノ指揮ヲ受ケ兒童ヲ教授スヘシ

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ル外尙准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得

第三十六條 六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若ハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條 小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得

第三十八條 補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外トス但シ其ノ授業時間ヲ正教科ノ授業時間内ニ定メサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級小

學校トス

第三十四條ノ規定ニ依リ兒童ヲ二部ニ分テ教授スル學校ヲ半日小學校トス

第四十條 第三十二條但書ノ規定ニ依リ正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制スルトキ及第三十四條ノ規定ニ依リ半日小學校ヲ設クルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ、代用私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 小學校ノ學級ヲ編制シ又變更シタルトキハ遲滯ナク管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第四節 補習科

第四十二條 補習科ハ分テ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス

尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第四十三條 補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四十四條 補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條 補習科ノ教科ヲ授クルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項ヲ交フヘシ

第四十六條 補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十七條 補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ選ヒテ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 補習科ノ教授日及教授時間ハ兒童ノ便宜ヲ圖リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ每週教授時數ハ三時以上十二時以下トス但シ裁縫ノ爲ニハ尙每週十二時以下ニ於テ教授時數ヲ増スコトヲ得

第四十九條 高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコトヲ得但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 補習科ノ教場ハ正教科ヲ授クル校舍外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 第四十三條第一項、第四十四條第四十六條及第四十八條第一項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五節 圖書審査及探定

第五十三條 小學校圖書審査委員會ノ開閉ハ府縣知事之ヲ命ス

第五十四條 小學校圖書審査委員ハ職務上當然委員タル者ヲ除ク外小學校圖書審査委員會開會毎ニ府縣知事之ヲ命ス

第五十五條 小學校圖書審査委員會ニ會長ヲ置キ府縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

會長ハ會務ヲ整理シ審査ノ顛末ヲ府縣知事ニ報告ス

第五十六條 小學校圖書審査委員會ニ書記ヲ置クコトヲ得

書記ハ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第五十七條 會長、委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十八條 委員ハ自己又ハ親族ノ著作、校閱、出版ニ係ル圖書ノ審査ニ參與スルコトヲ得ス

第五十九條 小學校圖書審査委員會ハ其ノ地方ノ情況ニ適當ナル圖書ヲ選定スヘシ

小學校教科用圖書ハ學校ノ種類、男女ノ區別又ハ學校所在地ノ情況ニ依リ各別ニ之ヲ選定スルコトヲ得

第六十條 府縣知事ニ於テ小學校圖書審査委員會ノ選定シタル圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日以前ニ其ノ旨ヲ公布スヘシ此ノ場合ニ於テハ五日以内ニ文部大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第六十一條 府縣知事ニ於テ小學校令第二十五條ノ規定ニ依リ一部修正ノ圖書ニ採定ノ效力ヲ繼續セシメタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ報告スヘシ

第六十二條 府縣知事ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ノ定價増加シタルトキハ其ノ採定ハ效力ヲ失フ

第六十三條 小學校教科用圖書ハ採定後四箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ更定スルコトヲ得ス  
小學校教科用圖書ヲ更定シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ襲用セシムヘシ

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二章 設備準則

第六十四條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

校地ハ道徳上嫌忌スヘキ場所、喧鬧ニシテ教授ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近セサルコトヲ要ス

ス

第六十五條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋內體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ其ノ面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス

二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上、高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ割合トス但シ兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿ナルトキハ百五十坪ノ

外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

四 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪マテニ減スルコトヲ得

屋內體操場ハ雨雪ニ堪フヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ

第六十七條 校舍ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

校舍ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得

第六十八條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室並ニ教員室ヲ設クヘシ

前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要ナル場合ニ於テハ講堂、兒童控所、宿直室、湯沸所、小使室、物置等ヲ設クヘシ

第六十九條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下、單級小學校ノ教室ハ幅及長各、四間以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス

天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ

牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ

採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

窓ハ兒童座席ノ前面ニ設クルコトヲ得ス

教室内ノ壁ハ灰色、淡黄色其ノ他ノ中性色ト爲スヘシ

土地ノ情况ニ依リ成ルヘク暖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ

各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ

第七十條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅ハ六尺以上タルヘシ

二階造ノ校舍ニハ二階以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス

階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ

第七十一條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ

第七十二條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ又井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

糞壺、尿溝、注壁等ハ不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ設

クルヲ常例トス

第七十三條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、地圖、度量衡、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計其ノ他必要ナル器具、參考用圖書及小學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ外歴史、地理及理科ノ教授用具、體操器械、中學校、高等女學校及實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

第七十四條 兒童用机及腰掛ノ寸法ハ第八號表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメンコトヲ要ス

第七十五條 土地ノ情况ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第七十六條 校舍ヲ新築、増築、改築シ若ハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七十七條 本章ノ規定中校舍ノ新築、改築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得

第七十八條 土地ノ情况ニ依リ本章ノ規定ニ依リ難キトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十九條 本章ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

第三章 就學

第八十條 市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ様式ニ依リ毎年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條 市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滞ナク其ノ兒童ノ

就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ  
市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ抹消スヘシ

一 兒童死亡シタルトキ

二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ

三 兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ

前二項ノ外學齡簿ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第八十二條 市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ區ノ使用ニ係ル尋常小學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第八十三條 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第八十四條 就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ掲クル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ依ル場合ヲ除外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第八十五條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス

第八十六條 市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童

ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認めタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試験ヲ行フコトヲ得

第八十七條 市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認めタルトキハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

第八十八條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシメ又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ツヘシ

第八十九條 市町村立尋常小學校ハ第十號表ノ様式ニ依リ學年ノ始メニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ

學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第九十條 市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスヘシ

第九十一條 市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以內ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十二條 在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滯ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十三條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第九十四條 郡長又ハ府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護

者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ  
第九十五條 市町村立尋常小學校長ハ每學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滯ナク關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十六條 第八十八條ノ規定又ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ學校以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教科ヲ卒業シタルトキ又ハ其教科ヲ卒業シテ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ届出ツヘシ  
第九十七條 本章ニ於テ市町村立尋常小學校トアルハ代用私立尋常小學校ヲ包含ス

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第九十八條 小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長

一 常任委員

一 臨時委員

第九十九條 會長ハ府縣視學官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第一百條 會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第一百一條 常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第一百二條 小學校教員檢定委員會ニ書記ヲ置キ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第一百三條 會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第一百四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者

四 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セザル者

第一百五條 教員ノ檢定ハ分テ無試驗檢定及試驗檢定トス

第一百六條 試驗檢定ハ每年少シトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

第一百七條 無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第八條乃至第一百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二 他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認めタル學校ヲ卒業シタル者

五 高等女學校ヲ卒業シタル者

六 其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認めタル者

第一百八條 小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在リテ

ハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準ス但シ圖畫、音樂、手工、農業、商業、英語ノ二科目若ハ數科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得  
本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第九條 小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ裁縫ハ女子ニ限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、比例、百分算

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操ノ初步

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

圖畫、唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得

本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第十條 小學校專科正教員ノ試験科目ハ圖畫、音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ

數科目トス其ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度ニ準ス

前項ニ規定シタル科目ノ試験ハ受験科目ノ教授法ヲ附帶シテ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試験ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト

認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス

本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ

謂フ

第十一條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ師範學校簡易科ノ學科程度ニ準ス但シ漢

文、圖畫、音樂ノ二科目若ハ數科目ヲ關キ數學ハ算術、歴史ハ日本歴史ニ限ルコトヲ得又女子ノ爲

ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得

女子ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得其ノ程度ハ通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方トス

第十二條 尋常小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、單比例

歴史、地理 日本歴史及日本地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ初步

圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操

理科、圖畫、唱歌ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲メニハ尙體操ヲ關クコトヲ得  
第百十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第  
百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ  
其ノ科目ノ試驗ヲ關クコトヲ得

- 一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
- 二 他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者
- 三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
- 四 小學校教員免許狀又ハ小學校師範學校卒業證書ヲ有シ其ノ有効期間滿チタル者
- 五 小學校教員講習科ヲ卒リタル者
- 六 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メ  
タル學校ヲ卒業シタル者
- 七 高等女學校ヲ卒業シタル者

第百十四條 試驗檢定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキ  
ハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得  
前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ三箇年以内ニ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シ  
タル科目ノ試驗ヲ關ク

第百十五條 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二節 教員ノ免許狀

第百十六條 府縣知事又ハ文部省直轄學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ普通免許狀ノ授與ヲ  
文部大臣ニ申請スルコトヲ得

- 一 小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在リ成績佳良ナル者
- 二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者
- 三 文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上市  
町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者

第百十七條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員府縣免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ  
申請スヘシ

第百十八條 府縣知事ニ於テ第百七條第六號ニ該當スル者ニ小學校正教員免許狀ヲ授與セントスルト  
キハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第百十九條 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル  
事項ヲ記入スヘシ

第百二十條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルト  
キハ其ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣又ハ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ普通免許狀ニ就キテハ金壹圓、府縣  
免許狀ニ就キテハ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

普通免許狀ノ書換若ハ再渡ニ關スル手数料ハ登記印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ  
第百二十一條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ文部大臣又ハ府縣知  
事之ヲ公告ス

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第百二十二條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコ



トヲ得

- 一 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ
- 二 學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
- 三 教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ
- 四 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第百二十三條 市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ陸軍六週間現役ニ服スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十四條 休職ノ期間ハ第百二十二條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事截止ミタル後尙三箇月トス

第百二十五條 休職者ハ職務ニ従事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第百二十六條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

- 一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
- 二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職ヲ出願シタルトキ
- 三 休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第百二十七條 第百二十二條又ハ第百二十六條ノ事由ニ依ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認めタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テ

ハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第百二十八條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

- 一 當該學校ノ廢セラレタルトキ
- 二 休職期間滿チタルトキ

第百二十九條 市町村立小學校教員ニシテ免許狀被奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第百三十條 市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第百三十一條 第百二十二條第一號、第百二十六條第一號及第二號前段ノ事由ニ因リ處分セントスルトキハ府縣知事ハ其ノ府縣恩給顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第百三十二條 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第百三十三條 學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第百三十四條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第百三十五條 正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第百三十六條 准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第百三十七條 市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村ニ居住スヘシ但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百三十八條 學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料

ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀視奪

第三百三十九條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メ  
テ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラ  
ス

第四百十條 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコト  
ヲ得ス

第四百十一條 市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘ  
シ

第四百十二條 市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ  
俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第四百十三條 市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員  
ノ職ニ就クコトヲ得ス

第四百十四條 第三百三十九條乃至第四百十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀視奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用  
ス

第四百十五條 私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第四百十六條 府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀視奪ノ處分ヲ行ヒタ  
ルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第四百十七條 府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改悛ノ實顯著ナリ

ト認メタル者ニハ第四百十三條ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ  
職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第四百十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ本科正教員及准教員ノ  
俸給額ハ明治三十年勅令第二號第六條ノ金額マテニ減スルコトヲ得

職名	本科正教員		專科正教員		准教員	
	上	下	上	下	上	下
一級	七十五圓	六十五圓	四十四圓	三十二圓	二十圓	十八圓
二級	六十圓	五十五圓	三十四圓	二十二圓	十六圓	十四圓
三級	五十圓	四十五圓	二十四圓	十八圓	十二圓	十圓
四級	四十圓	三十五圓	十八圓	十四圓	十圓	八圓
五級	三十圓	二十五圓	十四圓	十圓	七圓	六圓
六級	二十圓	十五圓	十圓	八圓		
七級	二十圓	十六圓	十圓	八圓		
八級	十六圓	十三圓				
九級	十三圓	十圓				
十級	十一圓	十圓				

第四百十九條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトヲ得

第四百十條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得

第四百十一條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼スル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸  
給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第五百五十二條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第五百五十三條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ府縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトヲ得

第五百五十四條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十五條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第五百五十六條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀審査又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第五百五十七條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

第五百五十八條 正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第五百五十九條 教員ニシテ一週三十時ヲ超ヘ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第六十條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第六十一條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第六十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第六十三條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第六十四條 第五百五十九條及第六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ

之ヲ決定シ第六十一條乃至第六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第六十五條 本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第六十六條 第四百四十八條ニ掲クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得、

第六十七條 本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節 代用教員

第六十八條 代用教員ノ進退ハ市立小學校ニアリテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ

第六十九條 市町村立小學校代用教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ懲戒處分ヲ行フヘシ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

懲戒處分ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ

第七十條 代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ郡市長又ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ報告スヘシ

第七十一條 小學校令第四十七條ノ規定並ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス

第七十二條 府縣知事ニ於テ代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第七十三條 市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第六章 授業料

第七十四條 尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七十五條 高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市ニアリテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七十六條 特別ノ事情アル市町村又ハ町村學校組合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ期限ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第七十七條 小學校補習科ノ授業料額ハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十八條 小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ス

第七十九條 他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第七十四條及第七十五條ノ制限以內ニ於テ授業料額ヲ増スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、町村學校組合又ハ區ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニ在ラス

第八十條 貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減スルコトヲ得

第八十一條 本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

第七章 學務委員

第八十二條 市町村、町村學校組合並ニ區ノ學務委員ハ十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ十五人ヲテニ増スコトヲ得

第八十三條 學務委員ハ左ニ掲クル事項ニ就キ市長、市參事會、町村長、町村學校組合長、區長並ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

- 一 就學督促ニ關スルコト
- 二 家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト

三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト

四 設備ニ關スルコト

五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト

六 授業料ニ關スルコト

七 學校基本財産ニ關スルコト

八 教科目ノ加除ニ關スルコト

九 修業年限ニ關スルコト

十 補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

十一 私立尋常小學校代用ニ關スルコト

第八十四條 公民中ヨリ選舉セラレタル學務委員ノ任期ハ四箇年トス  
補闕選舉ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第八十五條 學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 代用私立小學校

第八十六條 市ハ其ノ區域內ニ在ル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ニ代用セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

町村又ハ町村學校組合ハ其ノ區域內ニ在ル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ニ代用セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第八十七條 前條ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ左ノ事項ニ就キ私立小學校設立者ト協議ヲ遂ケ監督官廳ニ具申スヘシ

- 一 代用ノ期間

- 二 入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員
- 三 授業料ヲ徴收セントスルトキハ其ノ金額
- 四 補助金ヲ給スルトキハ其ノ金額
- 五 其ノ他必要ノ事項

前條ノ認可ヲ受ケタル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ニ就キ更ニ認可ヲ受ケヘシ  
 第百八十八條 代用ノ期間ハ四箇年ヲ超過スルコトヲ得ス但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第百八十九條 私立尋常小學校ニシテ教授上、管理上、衛生上適當ナル設備ヲ具ヘ成績佳良ナルモノニアラサレハ之ヲ代用私立小學校ト爲スコトヲ得ス  
 第百九十條 左ノ場合ニ於テハ代用私立小學校設立者ハ市町村又ハ町村學校組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 高等小學校ノ教科ヲ併置シ若ハ之ヲ廢止セントスルトキ
  - 二 補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止セントスルトキ
  - 三 補習科ノ兒童ヲ正教科ノ兒童ト合シテ學級ヲ編制セントスルトキ
  - 四 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ
  - 五 半日小學校ニ編制セントスルトキ
  - 六 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ
- 第百九十一條 左ノ場合ニ於テハ代用私立小學校設立者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 尋常小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サントスルトキ

二 學校長、教員又ハ代用教員ヲ採用若ハ解職セントスルトキ

第百九十二條 小學校令第五十七條ノ規定並ニ本令第七十四條、第七十六條、第七十八條乃至第百八十條ノ規定ハ代用私立小學校ニ關シ之ヲ準用ス  
 第百九十三條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ不利ナリト認メタルトキハ其ノ代用ノ認可ヲ取消スヘシ

第百九十四條 私立小學校ノ代用ヲ止メントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上三十日以前ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第百九十五條 幼稚園ハ滿三歳ヨリ尋常小學校ニ入學スルマテノ幼兒ヲ保育スルヲ以テ目的トス  
 第百九十六條 幼兒ヲ保育スルニハ其ノ心身ヲシテ健全ニ發達セシメ善良ナル習慣ヲ得シメ以テ家庭教育ヲ補ハントヲ要ス

幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス  
 常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメンコトヲ務ムヘシ

第百九十七條 幼兒保育ノ項目ハ遊戲、唱歌、談話及手技トス  
 第百九十八條 遊戲ハ分テ隨意遊戲及共同遊戲トス

隨意遊戲ハ幼兒ヲシテ各自ニ運動セシメ共同遊戲ハ歌曲ニ合ヘル諸種ノ運動等ヲ爲サシメ心情ヲ快活ニシ身體ヲ健全ナラシメンコトヲ要ス  
 第百九十九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱ハシメ聽器、發聲器及呼吸器ヲ練習シテ其ノ發音ヲ助ケ心情

ヲ快活純美ナラシメ兼テ徳性ノ涵養ニ資セシメントヲ要ス

第二百條 談話ハ有益ニシテ興味アル事實及寓言、通常ノ天然物及加工品等ニ就キテ之ヲ爲シ徳性ヲ涵養シ觀察注意ノ力ヲ養ヒ兼テ發音ヲ正シクシ言語ヲ練習セシメントヲ要ス

第二百一條 手技ハ幼稚園恩物ヲ用ヒテ手及眼ヲ練習シ心意ノ發育ニ資セシメントヲ要ス

第二百二條 保育ノ時數ハ一日五時以下トス  
前項ノ時數ニハ食事時間ヲ包含ス

第二百三條 幼稚園ニ團長ヲ置クコトヲ得

第二百四條 幼稚園ニ於テ幼兒ヲ保育スル者ヲ保母トス  
保母ハ女子ニシテ尋常小學校本科正教員又ハ准教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百五條 幼稚園長及保母ノ採用、解職ハ市町村立幼稚園ニ在リテ府縣知事之ヲ行ヒ私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ニ届出ツヘシ

第二百六條 幼稚園ノ幼兒數ハ百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ百五十人マテニ増スコトヲ得

第二百七條 保母一人ノ保育スル幼兒數ハ四十人以下トス

第二百八條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ  
一 建物ハ平家造トシ保育室、遊戲室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フヘシ  
二 保育室ノ大ハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナルコトヲ得ス  
三 遊園ハ幼兒一人ニ付一坪ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス  
四 恩物、繪畫、遊戲道具、樂器、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計、暖房器其ノ他必要ナル器具ヲ備フヘシ

五 敷地、飲料水及採光窓ニ關シテハ小學校ノ例ニ依ルヘシ

第二百九條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第二百十條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百十一條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職ニ關シテハ第二百五條ノ規定ヲ準用ス

第十章 附則

第二百十二條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但シ第一章中第一節乃至第四節、第五章中第四節及第五節、第六章、第八章ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百十三條 小學校ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十四年四月一日ヨリ五箇年間ハ三學級毎ニ本科正教員一人及准教員二人ヲ置クコトヲ得

既設小學校ノ編制ニシテ第三十五條ヲ除ク外第一章第三節ノ規定ニ牴觸スル場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ同節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百十四條 既設ノ補習科ニ於テ第一章第四節ノ規定施行ノ際現ニ其ノ教科ヲ學習スル兒童ニ就キテハ其ノ兒童ノ修了スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二百十五條 本令施行前府縣知事ニ於テ探定シタル小學校教科用圖書ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條ノ規定ニ依リ學年開始前公布ヲ爲スヘキ期間ハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテハ六十日トス

第二百十六條 本令施行前府縣知事ニ於テ定メタル規程ニ依リ編製シタル學齡簿及學籍簿ハ第三章ノ規程ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第二百十七條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀及之ト同一ノ效力ヲ有スル小學校師範學科卒業證書ハ本令ノ規定ニ依ル小學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第二百十八條 本令施行前從前ノ規程ニ依リ休職ヲ命セラレタル教員ノ休職期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第二百十九條 市町村立小學校教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ明治三十四年三月三十一日マテニ府縣知事ニ於テ定メタル從前ノ規程ニ係ル

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ニシテ公民中ヨリ選舉セラレ任期アル者ハ任期ノ滿了マテ其ノ職ヲ失フコトナシ其ノ任期ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ第百八十四條第一項ノ任期ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ノ數第百八十二條ニ規定シタル制限ニ超過スルトキハ抽籤ニ依リテ退職者ヲ定ムヘシ

第二百二十一條 第八章ノ規定施行ノ際現ニ代用中ノ私立小學校ノ代用ニ關シテハ協議ニ依リ定メタル期間ノ滿了マテ仍從前ノ例ニ依ル

第二百二十二條 既設幼稚園ニシテ第百六條及第百八條ノ規定ニ依リ難キトキハ期間ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ニ依ラサルコトヲ得

第二百二十三條 明治三十四年文部省令第九號、同第十四號、同第十六號、同第十八號乃至同第二十三號、明治二十六年文部省令第二號、同第三號、明治二十七年文部省令第一號、同第九號、明治二十九年文部省令第十號、同第十一號、明治三十二年文部省令第三十號、同第三十二號、同第三十七號ハ之ヲ廢止ス

明治二十七年文部省令第二十六號中補習科ニ關スル規定、明治二十四年文部省令第一號、同第四號、同第八號、同第十號乃至同第十三號、明治二十五年文部省令第七號、明治二十六年文部省令第九號、明治三十年文部省令第二號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

(第一號表以下略之)

○小學校令同施行規則ニ關スル件 三十三年八月文部省訓令第十號

府縣 沖繩縣ヲ除ク

今般勅令第三百四十四號ヲ以テ小學校令ヲ改正發布セラレ文部省令第十四號ヲ以テ小學校令施行規則ヲ發布セリ蓋從來ノ小學校令ハ明治二十三年ノ制定ニ係リ其ノ施行以來年ヲ閱スルコト已ニ十餘年之ヲ實施ノ蹟ニ徴シ時勢ノ進歩ニ考フルニ改正ヲ要スルモノ少カラス是レ今同小學校令ノ改正發布アルニ至リ又施行規則ヲ發布シテ其ノ改正ノ旨趣ニ依リ之カ施行ヲ要スル諸般ノ事項ヲ總括規定セル所以ナリ本大臣ハ府縣知事カ能ク改正小學校令ノ旨趣ヲ體シ施行規則ニ遵ヒ以テ小學教育ノ施設ヲシテ國運ノ進歩ニ伴ヒ時宜ニ適應セシメント望ム爲左ニ小學校令改正ノ要旨ト其ノ施行上特ニ注意ヲ要スルノ點ヲ舉示セン

小學校ノ教科目ニ於テハ從來其ノ數或ハ多キニ過キ兒童ノ負擔重キニ拘ラス其ノ得ル所ノ知識ハ却テ散漫ニ失シ確實ナルヲ得サルノ憂アリ故ニ教科目ノ數ハ成ルヘク之ヲ減少シ兒童心身ノ發育ニ應シテ適切ノ教授ヲ爲シ力ヲ必須ノ科目ニ集注セシメ務メテ日常生活ノ用ニ資セシメント期シ從來ノ加ヘ得ヘキ科目ヲ減シ、除キ得ヘキ科目ヲ増シ、讀書、作文、習字ノ如キ之ヲ合セテ國語ノ一科目トセラレタリ而シテ其ノ教授ハ元相關聯スルモノナルヲ以テ務メテ分離スルノ弊ヲ避ケ相待テ兒童學習ノ知識ヲ完實ナラシメントコトヲ要ス故ニ其ノ讀ミ方、綴リ方、書キ方ノ教授時間ノ如キハ各、其ノ主トスル所

ニ依リ區別シテ教授スルコトヲ得ルモ彼此相資シテ適宜ノ方法ヲ取ルヘシ又小學校ニ於テ教授ニ用フル假名ノ字體並ニ字音假名遣ノ例ヲ示シ以テ兒童ヲシテ簡便ニ實際ノ應用ニ資シ易カラシメンコトヲ期シ徒ニ複雜繁密ノコトノ爲ニ過度ノ心力ヲ費スコトナカラシメ且尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ノ數ヲ凡ソ千二百字内外ニ於テ選用スルコト、セリ從來小學校ニ於ケル教授ノ實況ヲ視ルニ專ラ力ヲ文字ノ教授ニ盡シテ德育上智育上肝要ナル事項ニ及フ能ハサルノ憾アリ而モ猶文字ノ智識確實ヲ關キ自在ニ之カ應用ヲ爲スヲ得ス蓋學習スル文字ノ數ヲ減シ日常須知ノモノニ限ルトキハ之ニ練熟セシメ易ク從テ應用上ニ於ケル利益却テ多クシテ必要ナル知識技能ヲ得シムルニ於テ亦敢テ不便ヲ感スルコトナキヲ得ン是レ今回尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ノ大體ノ範圍ヲ示シタル所以ナリ又小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ卒業ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定メ試驗ノ方法ニ依ラザルコト、ナセリ是レ心身ノ發育未タ十分ナラサル兒童ヲシテ競争心ニ驅ラレ試驗前一時ニ過度ノ勉強ヲ爲シ是カ爲ニ往々其ノ心身ノ發育ヲ害スルノミナラス試驗ノ爲ニ勉強スルノ陋習ヲ馴致スルヲ避ケンカ爲ナリ又小學校ニ於ケル每週教授時數ヲ減シ從來其ノ制限尋常小學校ニ在リテハ三十分ナリシヲ二十八時トシ高等小學校ニ在リテハ三十六時ナリシヲ三十時トセリ是レ小學校ニ於ケル教授ヲシテ特ニ兒童心身ノ發達ニ應セシメンコトヲ期スルカ爲ナリ其ノ他教則中ニ於ケル數多ノ改正ハ從來ノ實驗ニ徵シテ小學校教育ノ目的ヲ全カラシメンカ爲ニ外ナラス

修業年限ニ於テハ義務教育ノ年限即チ尋常小學校ノ修業年限ハ三年若ハ四年ニシテ此ノ年限内ニ於テ小學校ノ本旨トスル道徳教育及國民教育ノ基礎並ニ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルハ蓋シ爲シ難キ所ナリ之ヲ歐洲諸國ニ於ケル義務教育ノ年限ニ比スルニ短キコト三四年ナルノミナラス言語文字ノ學習ニ於テ我ハ彼ニ比シ數倍ノ困難アリ故ニ尋常小學校ノ修業年限ハ之ヲ延長スルノ要アルニ似タレトモ國度民情ニ考ヘ義務教育普及ノ實況ヲ察スレバ未タ遽カニ四年以上ニ延長スルヲ許サハル事

情アリ是ヲ以テ從來三年ナリシモノヲ四年ニ改正スルニ止メラレタリ是レ義務教育ヲシテ今日ノ國度民情ニ適合シ且其ノ普及上支障少ナカラシメンコトヲ期スルカ爲ナリ

修業年限ノ延長ハ直ニ之ヲ今日ニ實行シ難キモ將來ノ爲ニ豫メ其ノ準備ヲ爲スハ當ニ務ムヘキ所ナリ從來修業年限ニ長短アルニ拘ハラヌ同一ノ教科ヲ授クルノ制ナリシヲ改正シテ高等小學校ニ於テハ修業年限ニ應シテ其ノ教科目ヲ斟酌スルコトヲ許シタリ故ニ二年ノ高等小學校ノ教科目ヲシテ成ルヘク尋常小學校ノ教科目ト相聯絡セシメンコトヲ期シ以テ尋常小學校ニ二年ノ高等小學校ヲ併置スルノ便ヲ圖レリ從來補習科ノ名義ヲ以テ高等小學校ニ類似セル教科ヲ置キタル場處ノ如キハ成ルヘク之ヲ二年程度ノ高等小學校ノ編制ニ改メテ尋常小學校ニ併置スルノ方法ヲ講スヘシ而シテ高等小學校ヲ増設スルニ當リテハ資力ヲ量ラヌシテ濫ニ修業年限ノ長キモノヲ設ケンヨリモ寧ロ二年程度ノモノ、設置ヲ獎勵スヘシ

尋常小學校ニ高等小學校ヲ併置スルニ至ルハ希望スル所ナレトモ町村ノ資力或ハ其ノ併置ニ堪ヘサルモノ亦少カラサルヘシ此ノ如キ場所ニ於テハ補習科ヲ設クルヲ以テ利便多シトス從來設クル所ノ補習科ハ多クハ通常教授時間内ニ之ヲ設ケ之カ爲ニ別ニ教室ヲ要シ教員ヲ置クニ至レリ此ノ如キハ補習科ノ本旨ニ稱フモノニアラス元來補習科ハ通常教授時間内ニ於テハ學習スルコト能ハサル兒童ヲシテ既修ノ學科ヲ練習補充セシムルヲ旨トス故ニ補習科ヲ設置スルニハ或ハ夜間ニ於テシ或ハ日曜日ニ於テシ或ハ季節ヲ選ヒテ教授シ既修ノ教室ヲ之ニ利用シ正科ヲ擔任スル教員ヲシテ之ヲ兼擔セシムル等土地ノ情況ヲ斟酌シ專ラ便宜ヲ旨トスヘキナリ此ノ如キ方法ヲ以テ補習科ヲ設クルトキハ其ノ要スル費用ハ誠ニ少額ヲ以テ辨スルヲ得ヘシ而シテ小學校ヲ卒リテ後直ニ職業ニ従事スル者ヲシテ其ノ學習セル所ヲ一層實用ニ適應スルニ足ルノ練習補充ヲ爲サシムル爲補習科ヲ設クルハ最モ必要トスル所ナリ故ニ補習科ハ將來意ヲ用ヒテ其ノ増設ヲ獎勵スヘシ



就學ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ明確ニシテ義務教育ノ施行上不便ナカラシメンコトヲ期セラレタリ近年各地方ニ於テ學齡兒童ノ調査ヲ精確ニシ就學ノ督促ニ務ムルカ如キモ自今一層義務教育ノ普及ヲ圖リ邑ニ不學ノ戶ナク家ニ不學ノ徒ナカラシメ以テ國基ノ鞏固ヲ圖ルヘキナリ而シテ改正小學校令中雇傭ニ依リテ學齡兒童ノ就學ヲ妨クルヲ得サルコトヲ規定セラレタルハ尙モ未タ尋常小學校ノ教科ヲ卒業サル兒童ハ假令貧家ノ子弟ナリト雖モ之ヲ雇傭セサラシムルノ旨意ニアラス寧ロ雇傭主ヲシテ簡易便宜ノ方法ニ依リ其ノ雇傭スル兒童ニ教育ヲ施サシメントスルノ精神ニ外ナラス

授業料ニ於テハ從來ノ小學校令ノ規定ハ之ヲ徵收スルヲ本體トシ唯各個人ニ對シテノミ減免ノ道ヲ存シタリシカ明治二十六年ニ至リ勅令第三十四號ヲ以テ學校基本財産等ノ收入アルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ニ於テハ之ヲ徵收セサルヲ得ルコト、セラレタリ然ルニ爾來時勢ノ進歩ニ察シ且義務教育ノ性質ニ考フルニ尋常小學校ノ授業料ヲ徵收セサルヲ本體ト定ムルハ當然ノコトニ屬スルヲ以テ改正令ニ於テハ特別ノ事情アリ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ徵收スル場合ヲ除キ尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得スト規定セラレタリ蓋就學ノ督促ヲ爲シ義務教育ノ普及ヲ圖ランカ爲ニハ授業料ヲ徵收セサルハ其方法ノ一タラサルヲ得ス然レトモ授業料ノ收入ヲ以テ學校維持費ノ重要ナル財源ト爲シタル地方ニ在リテ遽ニ之ヲ廢止セントシテ其ノ經濟上ニ大ナル影響ヲ生スルカ如キハ亦深ク戒メサルヘカラサル所ナリ宜ク土地ノ情況ヲ察シ緩急ヲ量リテ適當ノ施設ヲ爲シ小學校教育ノ實效ヲ擧クルヲ以テ旨トナサルヘカラス

小學校圖書審查委員會ニ於テハ其ノ組織ヲ改正シ從來加ヘタル所ノ府縣參事會員及小學校教員ヲ除キ新ニ府縣書記官、府縣立高等女學校校長及郡視學ヲ加フルコト、セラレタリ蓋府縣參事會員ハ府縣ノ經濟ノ情況ニ通スルヲ以テ圖書審查ノ際成ルヘク府縣經濟ノ實況ニ伴ハシムル爲從來ハ之ヲ加ヘタリシモ多年ノ經驗ニ依リ今日ニ至リテハ最早參事會員ヲ加フルノ必要ナキヲ以テ之ヲ除カレタリ又從來小學校教員ヲ加ヘタリシハ圖書審查ノ際小學校ノ學科程度ニ適セシムルヲ要スルカ爲ナリシモ郡、府縣ニ視學ヲ置カレ之ヲ審查委員會ニ加ヘラレタル今日ニ於テハ最早教授ニ餘暇少キ小學校教員ヲ強テ加フルノ必要ナキニ至レルヲ以テ之ヲ除カレタリ而シテ更ニ府縣書記官ヲ加ヘラレタルハ之ヲシテ審查委員會ノ委員長ニ充テ審查會ヲ統轄セシムルノ必要アルヲ以テナリ高等女學校校長及郡視學ヲ加ヘラレタルハ師範學校長、中學校長、及府縣視學等ト同様ノ職務上關係アルヲ以テナリ又施行規則ニ於テハ審查ノ旨趣ヲ明ニシ學校ノ種類男女ノ區別又ハ學校所在地ノ情況ニ依リテ各別ニ適切ナル圖書ヲ選定スルコトヲ得シメ全府縣ヲ通シテ同一種類ノ圖書ヲ二種以上併用スルカ如キコトナカラシメントス然レトモ市街地ト村落トノ如キ或ハ山間ト海邊トノ如キハ成ルヘク各ノ土地ノ情況ニ適切ナルモノヲ選ヒテ之ヲ用フルヲ可トス又府縣知事ニ於テ採定シタル圖書ハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ少クモ九十日以前ニ其ノ採定シタル圖書ニ關スル必要ノ事項ヲ公布セシムルコト、シテ學年開始ニ至リ採定シタル圖書ノ供給ヲ闕キ教授ニ支障ヲ來スカ如キ憂ナカラシメントシタリ

小學校ノ職員ニ於テハ正准教員ノ外代用教員ヲ認メラレタリ是レ實際ノ情況ニ顧ミテ今日ノ時宜ニ應セラレタルニ外ナラス現在資格アル正教員ノ不足數夥シキ際ニ當リテハ代用教員即チ從來ノ雇傭員ヲ採用シテ之ヲ補充セサルヘカラス是レ今日ニ在リテハ已ムコトヲ得サル所ナリ而シテ又學校編制ノ規定ニ於テモ最モ教員ノ配置ニ注意シ小學校ニ於テハ單級小學校ト雖モ必ス正教員ヲ置クヲ本體トシ多級小學校ニ於テハ正教員ヲ得難キトキハ必スシモ學級毎ニ正教員ヲ置カスニ學級毎ニ一人ノ割合ヲ以テ之ヲ置クヲ得ルコト、シ以テ平均ニ資格アル正教員ノ配置ヲ爲スヲ得シメタリ故ニ能ク注意シテ獨リ都會ノ地ニ在ル小學校ニ資格アル正教員集注シテ僻陬ノ地ニ在ル小學校ハ資格ナキ者ノミヲ以テ充タサル、カ如キ弊ナカラシメンコトヲ要ス

改正小學校令中以上ニ示ス所ノ外猶從來ノ實況ニ徴シ時勢ノ進歩ニ考ヘ必要ノ改正ヲ施サレタルモノ

多シ然レトモ以上示ス所ノ如キハ其ノ最モ主要ナルモノナリ殊ニ改正小學校ニ於テハ意ヲ用ヒテ從來ノ施設ヲ改造スルノ方法ヲ避ケ之ヲ補綴改善スルノ方針ヲ取ラレタリ蓋往々改正ニ伴フ通弊タル從前ノ施設ヲシテ無効ニ歸セシメ經濟上大ナル變動ヲ生スルニ鑑ミタルナリ而シテ其施行上ノ手續ノ如キハ之ヲ從來ノ經驗ニ徵シ務メテ簡便ニ從ハント期セリ

小學校教育ノ事タル其ノ實效ヲ奏セント欲スレハ單ニ法規ノ整備ニノミ賴ルコトヲ得ス必スヤ小學校教員ニ其ノ人ヲ得學事ノ監督其ノ宜シキ得サルヘカラス而シテ小學校教員ニ其ノ人ヲ得ント欲スレハ之ヲ優待スルノ道ヲ講スルト之ヲ鼓舞獎勵スルノ法ヲ設クルヲ要ス近年市町村ハ概ネ教員ヲ優遇セントスルノ狀アリ政府モ亦年功加俸ノ制ヲ改メ特別加俸ノ制ヲ新設シ且教育資金ノ一部ヲ以テ教員獎勵ノ費ニ充ツルコトヲ許シタリ府縣知事ニ於テハ能ク教員ノ選任ニ注意シ有能ヲ獎メ有功ヲ推シ小學校教員ヲシテ各樂ミテ其ノ職ニ勵精セシメンコトヲ期圖スヘシ又學事ノ監督ニ關シテハ曩ニ地方官制ノ改正ニ依リ郡、府縣ニ視學ノ官ヲ置カレタルヲ以テ學事監督ノ機關略備ハリタリ今ヤ小學校令ノ改正發布セラレ又小學校令施行規則ヲ發布シタルニ依リ府縣知事ハ能ク其ノ旨趣ヲ體認スルト共ニ深ク小學校教員ノ選任ト學事ノ監督トニ注意シ以テ小學校ノ教育ヲシテ益、實用ニ適セシメ國民教育ノ實效ヲ擧クルニ於テ遺算ナカラシムコトヲ務ムヘシ

○同上ノ件北海道廳及沖繩縣

明治三十三年文部省訓令第十號ハ其ノ道廳、縣ニ於テモ同様心得ヘシ

○地方學事通則 明治二十三年十月 法律第八十九號

朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規定ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ス

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第一百三條町村制第一百四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託

ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ學校基本財產ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ハ單ニ其學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得學校基本財產ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ(二十九年法律第八十一號ヲ以テ本項中ヲ改正)

第十條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財產ト爲スヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財產ト爲スコトヲ得

府縣郡市町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ歳出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財產ト爲

シ又ハ特ニ歳入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財產ト爲スコトヲ得(二十九年法律第八十一號ヲ以テ府縣郡市町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財產ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財產ト爲スコトヲ得)

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財產ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財產ト爲スコトヲ得

第十二條 府縣郡市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就テハ內務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

◎第三類

營業 狩獵、漁業、醫師藥品、飲食物、及鑛業 諸取締規則、銀行、取引所、會社

○狩獵法 明治二十八年三月法律第二十號

沿革略記 明治元年四月及九月達ヲ以テ獵リニ發砲鳥打等ヲナシ農事ヲ妨クル者ノ取締ヲ爲ヌ○二年四月達ヲ以テ發砲ノ禁ヲ犯ス者ハ其器具ヲ沒收ス○三年五月達ヲ以テ郭

内外諸邸宅中ニ於テ發砲ヲ禁ヌ○五年正月第二十八號布告銃砲取締規則第六則ヲ以テ銃獵ノ取締ヲ爲ヌ○六年一月第二十五號布告ヲ以テ鳥獸獵免許規則ヲ制定ス○同年三月

月第十號布告ヲ以テ前令ヲ改正シ更ニ鳥獸獵規則トナス○七年十一月第百二十二號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十年十一月第十一號布告ヲ以テ尙ホ之ヲ改正ス○二十五年

十一月第百二十四號ヲ以テ前則ヲ廢シ狩獵規則ヲ定ム○二十八年法律第二十號ヲ以テ

前則ヲ廢シ更ニ狩獵法ヲ定ム是レ現行法ナリ  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

狩獵法

第一章 獵具獵法

第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、網繩又ハ挾ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、掘銃若ハ危險ナル畏及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官東京府下ハ警視總監以下倣之ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル

建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地
- 七 柵、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又

ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ柵、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セシメテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免狀ヲ分テテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セシメテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等	所得稅十五圓以上若ハ地租二百圓以上納ムル者	甲種金 五十圓
二等	所得稅三圓以上若ハ地租四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族	甲種金 一圓五十錢 乙種金 三圓
三等	一等二等以外ノ者	甲種金 一圓 乙種金 五十錢

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

三十年法律第七號  
以テハ免稅  
許ニ相當紙納  
粗以印紙  
ヲ以テ納  
トスル

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得  
第十一條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セサル者ヲ同  
伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料  
金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條 遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免許稅ヲ  
納メ其ノ規定内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規格外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノ  
モノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前  
ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特  
ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ三圓  
以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金  
ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十  
圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上一圓九十五錢以下  
ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限間效力ヲ有スルモノトス  
第二十五條 此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコトヲ  
得

○狩獵法施行細則 明治二十八年三月 農商務省令第四號

狩獵法施行細則左ノ通相定ム

狩獵法施行細則

第一條 狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ罽罽、投網、霞網其他ノ張網トシ網網ハ流シ網、張網繩トシ又扱ハ高換、干本扱トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ  
前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條 狩獵免狀ヲ受ケタルモノニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ)ニ其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ届出ツヘシ

第六條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁制ノ雜形左ノ如シ

(雜形略之)

第八條 共同狩獵地ノ免狀ヲ受ケント欲スル者ハ免狀期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

免狀ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ  
第九條 共同狩獵地ノ免狀ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ  
前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ  
共同狩獵ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十一條 共同狩獵地ハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ選ヒ左ノ雜形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ届出ツヘシ

(雜形略之)

第十二條 公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免狀人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免狀ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

- 一 鶴
- 一 一五十雀
- 一 一三光鳥
- 一 一雌雉
- 一 一燕(岩燕ヲ除ク)
- 一 一柄長
- 一 一鴉
- 一 一小雀
- 一 一鴉
- 一 一杜鵑
- 一 一四雀
- 一 一雌雉
- 一 一鴉

第十五條 左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十六條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一 鶉

一 椋鳥

一 鶉

一 雲雀

一 鶉

一 鶉

一 小啄木

一 雷鳥

一 松鷄

一 鳩(鴿ヲ除ク)

第十七條 左ニ掲クル鳥類ハ五月一日ヨリ九月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一 鶉

一 鶉

第十八條 牝鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牡鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ禁止ス

第十九條

北海道ニ於テハ第十七條ノ捕獲期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第二十條 營業ノ爲保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在

ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十一條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

○狩獵法取扱手續 明治二十八年三月農商務省訓令第四號

狩獵法取扱手續

狩獵法取扱手續左ノ通り相定ム

第一條 狩獵法第十九條第一項ニ據リ鳥獸ノ捕獲ヲ許可セントスルトキハ豫メ其捕獲スヘキ鳥獸ノ種類員數及捕獲期限ヲ定ムヘシ

同條第二項ニ依リ有害鳥獸ノ驅除ヲ出願スル者アルトキハ被害ノ狀況ヲ調査シ必要ト認メタル場合ニ限リ驅除期限及區域ヲ定メ之ヲ許可スヘシ

本條第一項ノ捕獲許可ノ期限ハ三週日以内トス

第二條 第一條ニ據リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ許可スルトキハ期限ヲ定メ其鳥獸ノ名稱及員數ヲ報告セシムヘシ

前項ノ報告ハ毎年一月及七月ノ兩度前半箇年分ヲ取纏メ第一號表第二號表ノ區別ニ從ヒ本大臣ニ差出スヘシ(三十二年農商務省訓令第七號ヲ以テ本項改正)

第三條 免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年七月三十一日限り本大臣ニ請求スヘシ

第四條 免狀原簿ヲ備置キ免狀下附ノ際之ニ其番號獵者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ登録スヘシ

第五條 免狀ニハ獵者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ記入シ廳印ヲ捺捺スヘシ

第六條 免狀ヲ亡失シタル者アルトキハ其種類番號及亡失者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第七條 獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ及概算ヲ以テ領收シタル免狀ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ斷裁スヘシ

第八條 免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ毎年甲種ハ十二月十五日マテ乙種ハ五月十五日マテ本大臣ニ報告スヘシ

(表式)略之

○狩獵取締ニ關スル件 明治三十一年九月農商務省訓令第十八號

近來狩獵者中或ハ免狀ヲ受ケヌ又ハ他人ノ免狀ヲ借受ケテ狩獵ヲ爲シ或ハ危險ナル獵具ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲シ或ハ密ニ保護鳥ヲ捕獲シテ之ヲ販賣スル者往々有之哉ニ相聞エ不都合ニ候條自今取締上ニ  
滑注意ヲ加フヘシ

○狩獵免許稅徵收ニ關スル件 明治三十年三月法律第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵免許稅徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス  
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○銃獵許可期限 明治三十二年九月臺灣總督府令第百十二號

銃獵ハ毎年九月十五日ヨリ翌年四月三十日迄ヲ期限トシ之ヲ許可ス  
銃獵ヲ爲サントスル者ハ所轄地方廳ニ願出銃獵免狀ヲ受クヘシ  
本令施行ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

○臘虎臘肭獸獵法 明治二十八年三月法律第十號

沿革略記 明治十七年第十六號布告ヲ以テ北海道臘虎並臘肭獸獵ヲ禁ス○十九年十二月  
勅令第八十號ヲ以テ臘虎臘肭獸獵及生皮輸入販賣規則ヲ定ム○二十八年法律第  
十號ヲ以テ前令ヲ廢シ本法ヲ制定ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臘虎臘肭獸獵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臘虎臘肭獸獵法

第一條 臘虎臘肭獸ヲ獵獲セムトスルモノハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 臘虎臘肭獸保護ノ爲勅令ヲ以テ禁獵區及獵禁期ヲ設ケ獵船、獵具、獵法ヲ制限シ牝牡、年齡ニ依リ其ノ獵獲ヲ禁止スルコトヲ得

第三條 軍艦艦長、警察官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ臘虎臘肭獸獵船、獵具及獵獲物ノ検査ヲ行ヒ犯則者ト認ムヘキ者及船員ヲ抑留シ獵船、船具、獵具、船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

第四條 禁獵區内又ハ禁獵期間ニ於テ臘虎臘肭獸獵ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船、船具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條 獵船、獵具、獵法ノ制限及牝牡、年齡ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船、獵具及獵獲物ノ検査ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ臘虎臘肭獸ヲ獵獲シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條 第四條、第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其ノ代價ヲ追徵ス

第八條 此ノ法律ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス



明治十七年第十六號布告及明治十九年勅令第八十號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○臘虎臘納獸獵免許規則 明治二十八年十二月 農商務省令第十二號

臘虎臘納獸獵免許規則左ノ通相定ム

臘虎臘納獸獵免許規則

第一條 臘虎若クハ臘納獸ヲ獵獲セントスル者ハ其住居地又ハ獵船定繫場管轄ノ地方長官（東京府下ハ警視總監以下之ニ做フ）ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二條 前條獵業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但地先沿岸ニ於テ獵銃ヲ使用セズ臘虎若クハ臘納獸ノ獵獲ヲナス者ハ第三ノ事項ヲ記載スルヲ要セス

一 獵業ノ種類

二 本籍及住所身分

三 獵船ノ數及其船名噸數

四 獵船定繫場

五 獵期及獵場

六 獵具獵法

第三條 獵業ヲ免許シタルトキハ左ノ雜形ニ依リ各獵船ニ免許證ヲ下付ス

（雜形略之）

第四條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ出港地管轄警察本分署ニ届出テ獵期ノ終了ニ際シ獵船定繫場若クハ寄港地管轄ノ警察本分署ニ獵業免許證ヲ差出シ檢印ヲ受クヘシ

前項警察本分署ノ檢印ヲ受ケサルコトニ箇年以上ニ涉ルトキハ免許ノ效ヲ失フモノトス

第五條 獵業免許ヲ得タルモノハ左ノ雜形ニ依リ旗章ヲ製シ獵業ニ從事スルトキハ常ニ船櫓又ハ船部ノ見易キ所ニ掲クヘシ

獵船ニ屬スル端艇ニハ本船船名ヲ便宜見易キ所ニ表記スヘシ

第六條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ常ニ免許證ヲ携帯シ軍艦艦長警察官吏稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ニ於テ檢閱センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事シタルトキハ終了ノ後二箇月以内ニ於テ其ノ獵獲シタル臘虎臘納獸ノ獵獲時日頭數獵獲場所及獵業ニ使用シタル端艇ノ數乘組員ノ種別人員ヲ詳記シ管轄地方廳（東京府下ハ警視廳以下之ニ做フ）ヲ經由シテ農商務省ニ報告スヘシ

第八條 獵業免許ヲ得タル者第三條ノ免許證ヲ亡失毀損シ又ハ第二條第二第三第四ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ免許證ノ下渡又ハ訂正ノ願書ヲ管轄地方長官ニ差出スヘシ

第九條 獵業免許ヲ得タル者獵業ヲ廢止シ又ハ第四條第二項ニ據リ免許ノ效ヲ失ヒタルトキハ直ニ免許證ヲ管轄地方廳ニ返納スヘシ

○臘虎臘納獸獵免許取扱手續 明治二十八年十二月 農商務省訓令第十六號

臘虎臘納獸獵免許取扱手續左ノ通相定ム

臘虎臘納獸獵免許取扱手續

第一條 臘虎臘納獸獵免許規則第一條ニ據リ出願スル者アルトキハ免許規則第二條ニ記載シタル各項ヲ調査シ意見ヲ添ヘ本大臣ニ差出スヘシ

臘虎臘納獸獵免許取扱手續

臘虎並臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

- 第二條 臘虎臘肭獸獵獲免許規則第二條但書ニ該當スル出願アルトキハ願書記載ノ事項ヲ調査シ不都合ナキモノハ免許證ヲ下付スヘシ
- 第三條 本手續第二條ノ免許證ハ使用高ヲ概算シ毎年三月本大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 本手續第二條ノ免許證ニハ獵業者ノ本籍身分住所氏名船種及獵船ノ定繫場ヲ記入シ應印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ
- 第五條 臘虎臘肭獸獵獲免許規則第八條ニ據リ免許證ノ下渡訂正ヲ出願シタルトキハ同則第一條ニ依レルモノハ農商務省ニ差出シ本手續第二條ニ依レルモノハ調査ノ上亡失毀損ハ再渡シ異動ハ朱書ヲ以テ訂正シ備考欄内ニ其事由ヲ記シ下付スヘシ
- 第六條 臘虎臘肭獸獵獲免許規則第九條ニ據リ返納スヘキ免許證ニシテ同則第一條ニ依レルモノハ其都度農商務省ヘ送付シ本手續第二條ニ依レルモノハ直ニ斷裁スヘシ
- 第七條 免許證原簿ヲ備置キ本手續第二條ノ免許證下付ノ際臘虎臘肭獸獵獲免許規則第二條但書ノ事由ヲ登錄シ廢業又ハ免許ノ效ヲ失ヒタルモノハ其事故ヲ記スヘシ
- 第八條 本手續第二條ノ免許證ヲ下付シタルモノ又ハ免許證再渡訂正ヲ許可シタルモノハ翌年二月十五日マテ左ノ表式ニ據リ本大臣ヘ報告スヘシ

(表式略之)

○臘虎並臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則 明治二十九年十二月勅令第八十號

臘虎並臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 明治十七年第十六號布告但書ニ依リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵獲區域内ニ於テ臘虎並臘肭獸ノ獵獲ニ從事スヘシ但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帶シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ
- 第二條 臘虎並臘肭獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルトキハ船ノ名噸數乗組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定タル徽章ヲ常ニ船橋又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ
- 第三條 臘虎並臘肭獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(捺印)ヲ用フルモ妨ケナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス
- 第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎並臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滞留シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎並臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セン證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國内ニ輸入スルコトヲ得

○北海道ニ於テ鹿ノ捕獲禁止 明治二十五年十一月農商務省令第十六號

鹿ノ捕獲ハ北海道廳管内ニ於テハ「明治二十五年第八十四號狩獵規則第二十五條」ノ保護期外タリトモ「同規則第二十七條」ニ依リ當分ノ内之ヲ停止ス

本例ニ違背シタル者二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

北海道ニ於テ鹿捕獲禁止

○遠洋漁業獎勵法 明治三十年四月 法律第四十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遠洋漁業獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遠洋漁業獎勵法

第一條 遠洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年十五萬圓以内ヲ支出スヘシ

第二條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登錄シタル船舶ヲ以テ勅令ニ於テ指定スル漁獵又ハ漁場ノ漁業ニ従事スル者ニ限り遠洋漁業獎勵金ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

第三條 前條ニ依リ獎勵金ヲ受ケルコトヲ得ヘキ船舶ハ木製ト鐵製トヲ問ハス總噸數汽船五十噸以上帆船三十噸以上ニシテ農商務大臣ノ定ムル船舶裝設規程ニ合格シ其ノ乘組員ハ總員ノ五分ノ四以上帝國臣民ヲ以テ組織シタルモノニ限ル(三十二年法律第四十五號ヲ以テ條中改正)

第四條 遠洋漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第五條 農商務大臣ハ第二條ノ出願者ニシテ漁業ノ組織確實ナリト認ムル者ニハ漁獵ノ種類又ハ漁獵ノ場所ニ依リ定率ヲ設ケ五箇年以内獎勵金ノ下付ヲ許可スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス(三十二年法律第四十五號ヲ以テ別號中改正)

一 汽船總噸數 每一噸 一箇年十五圓

但シ總噸數三百五十噸以上ハ噸數ニ應シ増加セス

一 帆船總噸數 每一噸 一箇年十圓

但シ總噸數二百噸以上ハ噸數ニ應シ増加セス

一 乘組總員 每一人 一箇年十圓

但シ勅令ニ定ムル乘組定員以外及年齡十六歲未滿ノ者ヲ除ク

第六條 遠洋漁業獎勵金下付ノ許可期間ト雖一箇年中遠洋漁業ニ従事スルコト五箇月ト滿タサルトキハ其ノ年ニ對シテハ獎勵金ヲ下付セス

第七條 左ニ記載スル船舶ヲ以テ遠洋漁業ニ従事スル者ニハ遠洋漁業獎勵金ヲ下付セス

第一 此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登錄ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶

第二 製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第八條 農商務大臣ハ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ又ハ遠洋漁業練習生ヲ該船舶ニ乗組マシムルコトヲ得

第九條 第五條ノ許可ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケ漁業ニ従事スル期間並ニ其ノ漁業ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル遠洋漁業獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ農商務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第十條 遠洋漁業ノ監督及遠洋漁業練習生ヲ養成スルノ必要アルトキハ農商務大臣ハ第一條ニ掲クル金額ヨリ十分ノ一以内ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第十一條 詐僞ノ所爲ヲ以テ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル遠洋漁業獎勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法末遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第十三條 第五條ノ許可ヲ受ケタル者此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ遠洋漁業獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得

第十四條 前數條ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲グル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十五條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

第十六條 此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

○遠洋漁業獎勵法施行細則 明治三十年六月農商務省令第十號

遠洋漁業獎勵法施行細則左ノ通相定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

遠洋漁業獎勵法施行細則

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住居地又ハ船舶定置場ノ管轄地方官廳ヲ經由シテ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

一 登簿船免狀寫(臘虎、臘豚獸獵業ハ免許證書ノ寫ヲ添フヘシ)

二 船舶検査證書寫

三 船舶裝明細書

(イ) 甲板上下ノ裝置

(ロ) 艙内ノ區劃

(ハ) 屬具及船員室ノ配置

(ニ) 漁艇及漁獵具ノ種類員數

四 乘組員數

(イ) 漁獵長經歷書

(ロ) 船舶職員並水火夫以下員數

(ハ) 漁獵夫員數

五 漁獵目論見書

(イ) 漁獵ノ種類及方法

(ロ) 漁獵ノ場所及區域

(ハ) 漁業ノ時期

(ニ) 漁獲物處理法

第二條 農商務大臣ニ於テ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ検査ノ場所及期日ヲ定メ當該官吏ヲシテ其船舶ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ地方官廳ヲ經テ認許證書(書式第一號)ヲ本人ニ下付スヘシ

第三條 認許證書ヲ受有スル遠洋漁業獎勵金ヲ受クル漁業ニ従事スルトキハ毎年一回艦裝ノ検査ヲ受クヘシ

前項漁業ニ従事スルトキハ發着地寄港地及期日ヲ其都度農商務省ニ届出ツヘシ

第四條 認許證書ハ常ニ艙内ニ保持シ當該官吏其他職權アル者ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第五條 認許證書ヲ受有スル船舶ハ農商務省ヨリ下付セル漁獵日誌ヲ備ヘ同日誌記載心得ニ依リ各事項ヲ記入スヘシ

第六條 認許證書ヲ受有スル者漁獵ノ種類漁獵ノ場所船體機關ノ構造及艦裝並ニ乘組員數ヲ變更セントスルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但止ムヲ得サル事故ニ因リ認可ヲ請フノ暇ナクシテ

變更シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ

前項ノ手續ヲ怠リタルトキハ認許證書ノ效力ヲ失フモノトス

第七條 認許證書ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ該證書ノ表面ニ記載スル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其再授若クハ書換ヲ出願スヘシ

第八條 認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破産シタルトキハ其遺族又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

認許證書ヲ受有スル商事會社解散又ハ破産シタルトキハ其清算人又ハ破産管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

第九條 認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ直ニ認許證書ヲ返納スヘシ

一 船舶ヲ賣渡、貸渡、交換又ハ讓渡シタルトキ

二 漁獵業ヲ廢止シタルトキ

三 船舶ヲ喪失又ハ解撤シタルトキ

四 遠洋漁業獎勵金ノ下附ヲ停止セラレタルトキ

五 前數項ノ外遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

第十條 認許證書ヲ受有スル船舶ハ發著ノ都度帝國ニ在テハ稅關、稅關支署、警察本分署又ハ浦役場外國ニ在テハ帝國領事館又ハ帝國貿易事務館ニ届出テ其證明ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 明治三十年勅令第七十六號第一條ニ指定シタル漁獵又ハ同第二條ニ指定シタル場所ノ漁業ニ從事シタル者ハ漁業終了後農商務大臣ノ指定シタル官廳ニ於テ當該官吏又ハ其他特ニ委任セラレタル官吏ヨリ船舶乘組數ノ證明ヲ受クヘシ

第十二條 賣買交換又ハ讓渡ニ依リ認許證書受有ノ船舶ヲ取得シテ其事業ヲ繼續セントスル者ハ第一

條ノ書類ニ其實質ニ對スル市町村長ノ證明書又ハ登記ノ謄本ヲ添へ農商務省へ願出テ更ニ認許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船舶ノ検査ヲ須キスシテ認許書ヲ下附スルコトアルヘシ

第十三條 遠洋漁業獎勵法第八條ニ依リ遠洋漁業練習生ノ船舶ニ乗組マシムルトキハ相當ノ待遇ヲ爲シ中途下船セシムルトキハ農商務大臣ノ認許ヲ受クヘシ但止ムヲ得サル事故ニ因リ認可ヲ受クル暇ナクシテ下船セシメタルトキハ事由ヲ詳記シ更ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

遠洋漁業練習生ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 遠洋漁業練習生ヲ乗組マシメタル船舶ノ船長漁獵長ハ該練習生ヲシテ技術ヲ練習セシメ漁獵終了ノ後其狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條 遠洋漁業獎勵法第八條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命ジタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ報告スヘシ

第十六條 遠洋漁業獎勵金ヲ請求スルモノハ請求書(第二號書式)ニ遠洋漁業明細書(第三號書式)漁獵日誌及第十條第十一條ノ證明書其他漁獵ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添へ之ヲ農商務省ニ差出スヘシ

第十七條 農商務省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審査シテ遠洋漁業獎勵金ヲ下附スヘシ

第十八條 遠洋漁業獎勵法違反ニ關シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其裁判ノ確定スル迄遠洋漁業獎勵金ノ下附ヲ中止ス

第十九條 遠洋漁業ニ從事スルコト一回五箇月ニ滿タサルトキハ二回以上ヲ通算シ五箇月ヲ經過シタルトキ獎勵金下附ノ請求ヲ爲スコトヲ得

漁業ノ期間一箇年以上ニ涉ルモノハ毎年度末ニ於テ之ヲ請求ヲ爲スヘシ

第三十條 天災其他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘズシテ其船舶ヲ外國人ニ賣渡交換贈與質入書入ヲナシタルトキハ船長又ハ所有者ヨリ其事由ヲ具シ農商務省ニ届出ツヘシ  
 (書式略之)

○遠洋漁業船舶裝規程 明治三十年六月農商務省令第九號

遠洋漁業船舶裝規程左ノ通相定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

- 第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ其船體ノ構造遠洋漁業ニ適シ明治二十九年法律第六十七號船舶検査法ニ依リ遠洋航船又ハ近海航船タルヘキ検査證書ヲ有スルモノニシテ本規程ニ合格シタルモノニ限ル
- 第二條 遠洋漁業船舶ノ船體ハ總甲板ヲ有シ適度ノ荷足ヲ搭載シ得ヘキ構造ナルヲ要ス
- 第三條 遠洋漁業船舶ハ漁艇ノ搭載捕獲物ノ處理及貯藏ニ必要ナル場所ヲ設クヘシ
- 第四條 遠洋漁業船舶ニシテ火藥室ヲ設クルノ必要アルモノハ安全ノ場所ニ構造スルヲ要ス
- 第五條 遠洋漁業船舶ハ漁艇及捕獲物等ノ揚卸ヲ便ニスル爲メ之ニ適スル支柱、索具、又ハ樺重器ヲ備フヘシ
- 第六條 遠洋漁業船舶ハ乘組總員ニ對シ一人ニ付一日少クモ二升ノ割合ヲ以テ三箇月分ヨリ少ナカラサル飲用水ヲ貯藏シ得ヘキ水箱又ハ水樽ヲ備フヘシ但天水貯溜ノ裝置若クハ蒸溜器ノ備ヘアルモノ又ハ漁業ノ種類ニ依リ當該官吏ニ於テ本條ノ水量ヲ貯藏スルノ必要ナシト認メタルトキハ該水箱又ハ水樽ノ容積ヲ遞減スルコトヲ得

第七條 遠洋漁業船舶ニシテ其漁獵ノ方法船艇ヲ要スルモノハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

- 一 臘虎獵船 漁艇三隻以上
- 二 臘豚獸獵船 同 四隻以上
- 三 鯨獵船 同 二隻以上
- 四 右ノ外各種ノ獵船 同 二隻以上

前各號ノ漁艇ニハ每隻航海用具羅針盤信號喇叭及水樽ヲ備フルヲ要ス

第八條 遠洋漁業船舶ニ於テ使用スル漁獵具ハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

- 第一 臘虎、臘豚獸獵船
- 一 銃獵殺法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付獵銃二挺以上及之ニ要スル彈丸、火藥、雷管等ヲ設備スルヲ要ス
  - 二 投括獵法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付網及竿ノ全備セル銛二挺以上トス
- 第二 鯨獵法
- 一 銃獵殺法ヲ爲スモノハ本船ニ銃砲二挺以上漁艇ニハ各二挺ニシテ之ニ要スル爆裂矢ハ銃砲一挺ニ付各二十發以上トシ火藥雷管等ハ其割合ヲ以テ之ヲ設備スヘシ
  - 二 投括獵法ヲ爲スモノハ漁艇每隻銛四挺又ハ爆裂銛二挺以上トス
  - 三 捕鯨網ハ銃砲一挺又ハ漁艇一隻ニ付麻網三百尋以上トス
- 第三 右ノ外各種ノ漁船
- 一 釣漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ
  - 二 延繩漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付延繩千五百尋以上トス
  - 三 手釣漁ヲ爲スモノハ漁夫一人ニ付手釣三具以上トス

遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ種類及場所並船舶乗組定員 五百三十八

- 二 網漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ  
刺網漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付刺網百尋以上トス  
其他網漁ヲ爲スモノハ網及附屬具ノ全備セルモノ一統以上及其修覆ニ要スル原料ヲ備フルモノトス
- 三 釣漁、網漁ヲ爲スモノニシテ餌料ヲ要スルモノハ其採取又ハ貯藏ニ必要ナル器具ヲ備フルモノトス

○遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ種類及場所並船舶乗組定員 明治三十年六月勅令 第四百七十六號

朕遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ種類及場所並船舶乗組定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ハ左ノ種類トス  
鯨獵業  
鹿虎獵業  
鰻魷獸獵業  
鱈漁業  
鮪漁業  
鰹漁業  
鱈漁業

第二條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ場所ハ左ノ洋海トス  
鯖漁業  
鰹漁業  
柔魚漁業  
大鰾漁業

- 支那海
- 臺灣海峽
- 東海
- 黃海
- 朝鮮海峽
- 日本海
- 荷哥德斯克海
- 太平洋

第三條 遠洋漁業獎勵法ニ依リ遠洋漁業獎勵金ヲ受クヘキ船舶乗組定員ハ左ノ如シ (三十二年勅令第百二十六號ヲ以テ改)

汽船	總噸數	五十噸以上	乘組定員二十八名以下
	同	七十五噸以上	同 三十名以下
	同	百噸以上	同 三十二名以下
	同	百五十噸以上	同 三十五名以下

遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁獲ノ種類及場所並船舶乗組定員 五百三十九

捕魚採藻ノ爲メ海面所有ノ件

五百四十

同	二百噸以上	同	三十八名以下
同	二百五十噸以上	同	四十一名以下
同	三百噸以上	同	四十四名以下
同	三百五十噸以上	同	四十七名以下
帆船			
總噸數		乘組定員	二十名以下
同	三十噸以上	同	二十三名以下
同	四十噸以上	同	二十六名以下
同	六十噸以上	同	二十八名以下
同	八十噸以上	同	二十九名以下
同	百噸以上	同	三十名以下
同	百二十噸以上	同	三十一名以下
同	百四十噸以上	同	三十二名以下
同	百六十噸以上	同	三十四名以下
同	百八十噸以上	同	三十七名以下
同	二百噸以上		

○捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ件 明治八年十二月布告第九十五號

從來人民ニ於テ海面ヲ區畫シ捕魚採藻等ノ爲所用致居候者有之候處右ハ固ヨリ官有ニシテ本年(二月)第二十三號布告以後ハ所用ノ權無之候條從前ノ通所用致度者ハ前文布告但書ニ準シ借用ノ儀其管轄應

可願出此旨布告候事

○海面借用願ニ關スル件 明治八年十二月太政官達第二百十五號

捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ儀ニ付今般第九十五號ヲ以テ布告候ニ付テハ右借用願出候者ハ調査ノ上差許其都度内務省へ可願出此旨相達候事

○捕魚採藻者ニ府縣稅ヲ賦シ營業取締ノ件 明治九年七月太政官達第七十四號

明治八年(十二月)第二百十五號ヲ以テ捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ儀ニ付相達置候處詮議ノ次第有之右但書取消シ候條以來各地方ニ於テ適宜府縣稅ヲ賦シ營業取締ハ可成從來ノ慣習ニ從ヒ處分可致此旨相達候事

○湖川池沼所用ノ件 明治九年十月内務省達乙第百十六號

捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ儀ニ付本年第七十四號ヲ以テ沿海府廳へ公達ノ旨モ有之付テハ湖川ト雖モ總テ海面ニ準シ處分可致其他官有ニ屬スル池沼ハ人民ノ願ニ因リ他ニ無障礙分ハ明治七年當省乙第五十五號達ニ照準各種ノ名義ヲ以テ借用料收入所用可差許積相心得當省へ可申出此旨相達候事

海面借用願ニ關スル件 捕魚採藻者ニ府縣稅ヲ賦シ營業取締ノ件

五百四十一



漁業ヲ保護シ水産ノ蕃殖ヲ計ル件 鮑等捕獲ノ爲潜水器使用ニ關スル件  
魚兒介苗等捕採制限ノ件

五百四十二

○漁業ヲ保護シ水産ノ蕃殖ヲ計ル件 明治十四年一月内  
務省達乙第二號

水産ノ盛殖ヲ計ルハ國家經濟ノ要務ニ候處置縣以降往往舊慣ヲ變易シテ捕魚其宜ヲ失シ爲之水族ノ蕃殖ヲ妨ケ巨多ノ障礙ヲ生シ候類不少哉ニ相聞候ニ付篤ト實地取調ノ上一層漁業ヲ保存シ水産ノ盛殖ニ注意可致此旨相達候事

○鮑等捕獲ノ爲潜水器使用ニ關スル件 明治二十五年三月  
農商務省達第五號

近來沿海ニ於テ鮑等捕獲ノ爲潜水器械ヲ使用スル者有之趣相聞候處右ハ使用適度ヲ過ルトキハ介種蕃殖上ニ妨害ヲ來スヘキモノニ付篤ク注意ヲ加ヘ適宜取締ノ方法取調當省ヘ可伺出此旨相達候事

○魚兒介苗等捕採制限ノ件 明治十九年六月農  
商務省訓令第九號

魚兒介苗其他未成長ノ苔藻等濫リニ之ヲ捕採セサル様各地ノ狀況ニ從ヒ適宜之カ制限ヲ立ツヘシ

○漁業組合準則 明治十九年五月農  
商務省令第七號

漁業組合準則左ノ通り相定ム依テ其準則ニ基キ組合ヲ設置セシメ其規約認可ノ上當省ヘ届出ツヘシ  
漁業組合準則

第一條 漁業(水産動物採捕ヲ併稱ス)ニ從事スル者ハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ管轄廳ノ見込ヲ以テ組合ヲ要セサル

「アルヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯生シ利益ヲ増進スルヲ目的トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕魚採藻(遠海漁業若クハ大地引臺網捕鯨鯨魚昆布採收ノ類)各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ズ一組合トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
  - 二 組合ノ目的
  - 三 役員選舉法及權限
  - 四 議會ニ關スル規程
  - 五 加入者及退去者ニ關スル規程
  - 六 違約者處分ノ方法
  - 七 費用ノ徵收及賦課法
  - 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
  - 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事
  - 十 漁場區域ニ關スル事
  - 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
- 第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

漁業組合準則

五百四十三

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントストルキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ  
 第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ但規約  
 ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントストルキモ亦本條ニ準スヘシ  
 第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ但  
 支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○北海道漁業取締規則 明治三十一年十一月北  
 海道廳令第六十七號

北海道漁業取締規則左ノ通り定メ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス  
 但シ明治十九年十月北海道廳甲第十號布達並明治二十一年三月北海道廳令第十八號ハ本則施行ノ日ヨ  
 リ廢止ス

北海道漁業取締規則

第一條 此規則ニ於テ漁業トハ水産動植物ノ採捕ヲ營業ト爲ス者ヲ云フ  
 第二條 漁業ヲ爲サントスル者ハ其種類毎ニ願書第一號書式第三條ノ  
 願出許可ヲ受クヘシ(三十二年五月廳令第  
 四十八號ヲ以テ改正)  
 漁業ノ方法數支廳所轄ニ跨ルノ必要アルモノハ關係支廳長ヲ經テ北海道廳長官ニ願出許可ヲ受クヘ  
 第三條 水面ノ位置又ハ沿岸ノ區域ヲ定ムル漁業ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ戶籍證明書ヲ添付スヘ  
 地曳網ノ打廻百五十尋以上ノモノヲ用井入會漁業ヲ爲サントスル者亦同シ

三十一  
 北海道  
 告示第  
 六十二  
 號百  
 六以テ  
 本  
 條但書  
 ノ指  
 定場所  
 ヲ指

第四條 遠洋漁業ヲ爲サントスル者ハ其願書第三號ニ戶籍證明書ヲ添付シ其根據地支廳長ヲ經テ北海道  
 廳長官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 漁業組合ノ設ケアル地區内ニ於テ漁業ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ組合頭取ノ連書ヲ受クヘ  
 シ組合頭取ハ故障ナキトキハ速ニ連書シ若シ故障アルトキハ其理由ヲ副申スヘシ

第六條 第三條第一項ノ漁業願書ニハ同種若クハ漁期ヲ同フスル隣接漁業者ノ連署ヲ受クヘシ隣接漁  
 業者ハ故障ナキトキハ速ニ連署シ若シ故障アルトキハ其理由ヲ副申スヘシ

第七條 漁業組合頭取若クハ隣接漁業者ニ於テ連書ヲ拒絕シ其理由ヲ副申セヌ又ハ故ラニ時日ヲ遷延  
 スルトキハ出願人ハ其願書ヲ副申シテ願書ヲ差出スベトヲ得

第八條 海藻類軟体類(魚類) 甲壳類(刺類)ノ採捕ハ一ケ年以來其地漁業組合區域内ニ居住スル者ニ限  
 リ之ヲ許可ス但シ特ニ指定シタル場所ハ此限ニ在ラス

第九條 二名以上聯合シテ漁業ノ許可ヲ得タルトキハ一名ノ總代人ヲ定メ所轄戶長ヲ經テ支廳長ノ許  
 可ヲ得タル者ハ支廳長ニ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル者ハ北海道廳長官ニ届出ツヘシ總代人ニ異動  
 アリタルトキ亦同シ

第十條 漁業ノ許可ヲ得タル者ハ其地漁業組合ニ加入スヘシ加入セシテ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 漁業ノ許可ヲ得タル者毎年着業並休業廢業死亡(戶主若クハ) 改氏名轉居ノ節及第三條ノ漁  
 業許可ヲ得タル者家督相續ノ節ハ十日以内ニ所轄戶長ヲ經支廳長ノ許可ヲ得タル者ハ支廳長ニ北海  
 道廳長官ノ許可ヲ得タル者ハ北海道廳長官ニ届出ツヘシ

第十二條 第九條總代人ヲ定メタル場合ト雖モ休業廢業届ニハ各自連署スヘシ  
 第十三條 第三條ノ漁業ヲ出願シ又ハ許可ヲ得タル者ニシテ其地ニ居住セザルトキハ本業ニ係ル事件

三十二年  
北海道廳  
令第四十  
九號ヲ以  
テ本條ノ  
漁業休業  
期間計算  
方ヲ定ム  
三十二年  
北海道廳  
告示第七  
號ヲ以テ  
潜水器械  
ヲ使用シ  
海扇ヲ採

捕スルコ  
トヲ得ル  
場所ヲ指  
定ス

ヲ所辨スル代理人ヲ定メ違署ノ上所轄戸長ヲ經支廳長ニ届出ツヘシ  
第十三條 漁期漁場並漁網種類ノ變更漁具ノ大サ及員數ノ増加ハ出願當時ノ手續ニ準シ許可ヲ得ルニ  
アラサルハ之ヲ爲ヌヲ得ヌ

第十四條 前條ノ外營業方法書ニ記載シタル事項ヲ増減變更セントスルトキハ豫メ所轄戸長ヲ經支廳  
長ノ許可ヲ得タル者ハ支廳長ニ北海道廳長官ノ許可ヲ得タルモノハ北海道廳長官ニ届出ツヘシ  
第十五條 許可ヲ得タル魚種外ノ魚族其漁具ニ罹リタルトキハ之ヲ捕獲スルコトヲ得但シ鯉鱒ハ此限  
リニアラス

前項魚族ノ捕獲多量ニ上リ一種ノ漁業ト認ム可キトキ又ハ障害アリト認ムルハ其捕獲ヲ停止スル  
コトアルヘシ若シ停止ノ命ニ從ハサルトキハ本種漁業ノ許可ヲ取消スヘシ (三十二年十月廳令第  
七十三號ヲ以テ本條  
追加以下條項)  
順次繰下ケ

第十六條 漁業ノ許可ヲ得タル者引續三箇年間休業シタルトキハ許可ノ指令ハ其效ヲ失フモノトス但  
シ水産蕃殖其他公益上必要ト認メ營業ヲ停止シタル場合ハ此限ニアラス  
水産蕃殖其他公益上必要ト認ムルトキハ營業ヲ停止シ許可ノ指令ヲ取消シ又ハ漁場ノ變更ヲ命スル  
コトアルヘシ

第十七條 河川並湖沼口ニ於テ不動漁具ヲ用井又ハ水面ヲ横斷スル装置ヲ爲シ魚類浜上ノ妨害タル漁  
業ヲ許サズ但シ魚類蕃殖保護ノ方法ヲ設クルニ於テハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ  
第十八條 毒物爆發物等蕃殖ヲ害スヘキ物質ヲ用井水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ヌ  
第十九條 潜水器械ヲ使用シテ海鼠及介類ヲ採捕スルコトヲ得ヌ但シ特ニ指定シタル場所ハ此限リニ  
アラス

第二十條 魚卵魚兒稚介等未成長ノモノヲ採捕スルコトヲ得ヌ但シ沿岸ニ寄り上リタルモノハ此限ニ  
アラス

アラス

第二十一條 水産調査若クハ學術研究ノ爲メ水産動植物採捕ノ必要アリト認ムルトキハ本則制禁ノ場  
合ト雖モ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十二條 遊漁若クハ自用ノ爲メ水産動植物ノ採捕ヲ爲スハ願出ニ及ハスト雖モ本則及其地漁業組  
合ノ規約ニ定メタル制限ニ從フヘシ

第二十三條 本則第二條第四條第十條後段第十三條第十八條第十九條ニ違背シタル者ハ三圓以上十圓  
以下ノ罰金ニ處ス (三十二年十一月廳令第  
八十二號ヲ以テ改正)

第二十四條 本則第十一條第十四條第十七條第二十條第二十二條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十  
五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第二十五條 本則第十二條中漁業ヲ出願シ其地ニ居住セスシテ代理人ヲ届出サル者ハ其出願ヲ無効ト  
ス

第二十六條 本則第十三條及第十條後段ニ違背シ處罰セラレタル者ニ對シテハ支廳長ノ許可シタルモ  
ノハ支廳長北海道廳長官ノ許可シタルモノハ北海道廳長官ニ於テ許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ  
第二十七條 營業上ニ付テハ從業者本則ニ違背シタル場合ト雖モ營業者其責ニ任ス

第十二條ニ依リ代理人ヲ定メタル場合ハ第二十三條第二十四條ノ罰則ハ其代理人ニ之ヲ適用ス  
附則

第二十八條 本令施行前許可ヲ得タル一期限ノ漁業ハ更ニ出願ヲ要セス其期間漁業ヲ爲スコトヲ得  
第二十九條 本令施行前無期限ノ漁業許可ヲ得タル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以内ニ本則定ムル所  
ノ書式ニ準シ其營業方法書ヲ作り所轄戸長ヲ經テ支廳長ニ届出ツヘシ  
(書式略之)

北海道漁業取締規則第二十九條ニ該當スルモノニシテ同條ノ手續ヲ了セサルモノノ營業停止ノ件  
北海道漁業取締規則第十六條ノ漁業休業期間計算方  
五百四十六

○北海道漁業取締規則第十六條ノ漁業休業期間計算方  
明治三十三年五月北海道廳令第四十九號

明治三十年十一月 北海道廳令第六十七號北海道漁業取締規則第十六條ノ漁業休業期間計算方左ノ通相定ム  
許可ヲ受ケタル後着手セサル者ハ許可ノ日ヨリ其他ハ休業セシ年ノ初ヨリ起算ス

○北海道漁業取締規則第二十九條ニ該當スルモノニシテ同條ノ手續ヲ了

セサルモノノ營業停止ノ件  
明治三十一年十二月北海道廳令第八十六號

明治三十年十一月 北海道廳令第六十七號北海道漁業取締規則第二十九條ニ該當スルモノニシテ明治三十二年三月三十一日迄ニ同條ノ手續ヲ了セサルモノハ之ヲ了スル迄其營業ヲ停止ス停止一箇年ニ至リタルトキハ營業許可ノ指令ハ其効ヲ失フモノトス

○潜水器械ヲ使用シテ海扇ヲ採捕スルコトヲ得ル場所指定  
明治三十二年一月北海道廳告示第七

明治三十年十一月 北海道廳令第六十七號北海道漁業取締規則第十九條但書ニ依リ潜水器械ヲ使用シテ海

扇ヲ採捕スルコトヲ得ル場所ヲ左ノ通り指定ス

但此指定ハ明治三十二年四月一日ヨリ向フ三箇年トス  
根室國花咲郡瑤瑤村所屬多樂勇留、志發、水晶、ハルカル、ホンハルカル、アキニル各島嶼沿海

○北海道漁業取締規則ニ依ル届書式  
明治三十年十一月北海道廳告示第二百五十號

明治三十年十一月北海道廳令第六十七號北海道漁業取締規則ニ依ル届書式左ノ通り定ム  
(書式略之)

○北海道鮭鱒保護規則  
明治三十年十一月北海道廳令第六十八號

北海道鮭鱒保護規則左ノ通り定ム明治三十一年一月一日ヨリ施行ス  
但シ明治二十七年十一月北海道廳令第七十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ明治二十八年四月北海道廳令第三十二號本文中鮭鱒ノ二字及二項三項ハ同日ヨリ削除ス

北海道鮭鱒保護規則  
第一條 鮭鱒漁業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限リ出願スルコトヲ得

- 一 特ニ指定シタル場所ニ於テ漁業ヲ爲サントスルモノ
- 二 本令施行後廢業シタル漁場ニシテ廢業後一箇年以内ニ其漁場ニ於テ同一ノ漁法ニ依リ漁業ヲ爲サントスル者
- 三 第六條ノ起業者ニシテ書種ノ實効ヲ舉ケタル者

潜水器械ヲ使用シテ海扇ヲ採捕スルコトヲ得ル場所指定  
北海道漁業取締規則ニ依ル届書式 北海道鮭鱒保護規則

三十一  
年  
北  
海  
道  
廳  
令  
第  
百  
一  
十  
一  
號  
北  
海  
道  
廳  
令  
第  
一  
號  
增  
定  
ス

前各號ニ該當スルモノト雖モ旋網小舌網巻網巾着網

第二條 鮭鱒ノ浜上スル川湖沼ヲ三等ニ區別シ其川湖沼ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 建網地曳網及旋網ハ其何種ノ漁業ヲ開ハス一等川湖沼ハ其川湖沼口及川湖沼口ノ左右沿岸六

百間其沖合へ各六百間以内ノ水面ニ於テ根室國千島國ハ四月一日ヨリ十二月三十一日迄其他ハ六月

一日ヨリ十二月三十一日マテ二等川湖沼ハ同四百間三等川湖沼ハ同三百間以内ニ於テ根室國千島國

ハ四月一日ヨリ十二月三十一日迄其他ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテ之ヲ許可セス但シ建網地

曳網漁業ニシテ第一條第二號ニ該當スルモノハ此限ニアラス

第四條 川地曳網ノ曳方ハ其流水ノ巾七分ヲ超ユルコトヲ得ス且ツ杭錨其他ノ物ヲ用ヒテ網ヲ支ユル

コトヲ得ス

第五條 左ノ場所ニ於テハ毎日日没後日出前鮭鱒ノ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

一 川湖沼

二 第三條制限以内ノ水面

第六條 鮭鱒ノ人工孵化場又ハ天然蕃殖場ヲ設置セントスル者ハ其事業ノ設計維持ノ方法等ヲ記載シ

タル書面ヲ添へ所轄戸長支廳長ヲ經北海道廳長官ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ許可シタル後ト雖モ設

計方法ニ背キ實効ナシト認ムルトキハ其指令ヲ取消スコトアルヘシ

人工孵化場ノ設置ハ其事業ノ設計百万粒以下ニ係ルモノハ當分ニ之ヲ許可セス

第七條 前條ノ許可ヲ得タル者孵化用ノ親魚又ハ天然蕃殖場ニ於テ老魚ヲ捕獲セントスルトキハ所轄

戸長支廳長ヲ經北海道廳長官ニ願出許可ヲ受クヘシ

第八條 孵化事業ノ成績ハ孵化期中毎月末日所轄戸長支廳長ヲ經北海道廳長官ニ届出ツヘシ

第九條 第六條ノ許可ヲ得タル者其事業ヲ休廢スルトキハ其理由ヲ具シ所轄戸長支廳長ヲ經北海道廳

長官ニ届出ツヘシ

第十條 鮭鱒ハ自用トシテ捕獲シ又ハ遊漁スルコトヲ得ス

第十一條 本則第二條ニ依リ指定シタル川湖沼内へハ鋸屑塵芥其他有害物ヲ投棄スルコトヲ得ス

第十二條 本則第四條第五條ニ違背シタル者ハ三圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十年十二月廳令第

第十三條 本則第七條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以

上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本則第四條第五條ニ違背シ處罰セラレタルモノニ對シテハ支廳長ニ於テ其營業ヲ停止スル

コトアルヘシ

○北海道鮭鱒保護規則第二條ニ依ル川湖沼

明治三十年十一月北海道廳告示第二百五十一號

明治三十年十一月北海道廳令第六十八號北海道鮭鱒保護規則第二條ニ依ル川湖沼ヲ左ノ通り定ム

(左記別表略之)

○北海道鮭鱒保護規則第一條第一號鮭鱒漁業ヲ出願シ得ル場所指定

明治三十年六月北海道廳告示第四百四十一號

明治三十年十一月北海道廳令第六十八號北海道鮭鱒保護規則第一條第一號鮭鱒漁業ヲ出願シ得ル場所ヲ

左ノ通り指定ス

千島國色丹得撫新知占守四郡沿海全國藥取郡藥取村モヨロ川ヨリ擇捉郡丹根前村ト内保村トノ村界ニ

至ル東海岸

北海道鮭鱒保護規則第二條ニ依ル川湖沼

北海道鮭鱒保護規則第一條第一號鮭鱒漁業ヲ出願シ得ル場所指定

鮭人工孵化場及天然蕃殖保護組合事業繼續出願期限  
千歲川本支川木材薪木川流禁止 鮭建網入會漁業取締規則

五百五十二

○鮭人工孵化場及天然蕃殖保護組合事業繼續出願期限 明治三十一年二月北  
從來民設ノ鮭人工孵化場若クハ天然蕃殖保護組合ハ明治三十年 月 十一 北海道廳令第六十八號北海道鮭鱒  
保護規則第六條第七條ニ據リ本年六月三十日ヲ限リ更ニ願出許可ヲ受クヘシ  
但シ該期限内ニ願出サルトキハ其事業ヲ繼續スルヲ得サルモノトス

○千歲川本支川木材薪木川流禁止 明治二十三年十二月北  
北海道廳令第七十五號

鮭魚產卵孵化期節中即每年九月二十日ヨリ翌年五月迄千歲川本支川 支川夕張、ワツ、島松、漁、ニ於テ木  
材薪木ノ川流シヲ禁ス犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處  
ス

但ママテ太ヨリ下流ノ本支川ハ翌年二月ヨリ十月迄其禁ヲ解ク (二十四年一月廳令第三號二十五年  
第八十四號同年十二月廳  
令第九十六號ヲ以テ改正)

○鮭建網入會漁業取締規則 明治三十年十一月北  
北海道廳令第六十九號

鮭建網入會漁業取締規則左ノ通り定メ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス  
但シ漁業組合規約中追鮭漁業ニ關スル條項ニシテ認可ヲ與ヘタルモノハ本則施行ノ日ヨリ其効ヲ失  
フモノトス

鮭建網入會漁業取締規則

第一條 鮭建網漁業ノ許可ヲ得タル者ハ北海道廳長官ニ於テ指定シ若クハ漁業組合ニ於テ北海道廳長  
官ノ認可ヲ得タル入會漁場ニ限リ出漁スルコトヲ得

第二條 入會漁場ニ於テハ漁具ヲ常設シ若クハ常設ノ裝置ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 入會漁業ニ關スル事項ハ其關係漁業組合ニ於テ規約シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 第二條ニ違背シタル者ハ三圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス (三十年十二月廳令第  
八十二號ヲ以テ改正)

第五條 前條ニ依リ處罰セラレタル者ハ支廳長ニ於テ其出漁ヲ停止スルコトヲ得

○鮭建網入會漁業取締規則 明治三十年十二月北  
北海道廳令第八十三號

本道ニ於ケル鮭建網漁業ノ制限左ノ通り定メ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス  
但シ明治二十八年 月 四 北海道廳令第三十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ既ニ認可シタル漁業組合規約  
ニシテ本令ニ抵觸スル條項ハ同日ヨリ其効ヲ失フモノトス

北海道鮭鱒鮭建網漁業制限

第一條 鮭鱒

第一條 鮭鱒建網漁業ハ其漁場間左記ノ間數以上ノ距離アルニアラサレハ出願スルコトヲ得ス

漁網名稱	既設左右漁場出願漁場ト左右隣 間ノ直線距離	接漁場トノ距離	地 方 區 別
行成網角網	百六十間	八十間	渡島、後志、石狩、天鹽、(天鹽郡ヲ除ク)四國北見國ノ内 利尻、禮文二郡
	二百間	百間	天鹽國天鹽郡北見國(利尻、禮文二郡ヲ除ク)
	三百間	百五十間	膽振、日高、十勝、釧路、根室、千島六國

鮭鱒鮭建網漁業制限

五百五十三

第二條 鯨鮠鮭鱒鮭網漁業願ノ制限ハ左記ノ區別ニ依ル

左右隣接漁場ノ距離	八十間以上	九十間以上	百間以上
角	縱十四尋以内	縱十六尋以内	縱十八尋以内
網	橫十四尋以内	橫十六尋以内	橫十八尋以内

第三條 許可ヲ得タル行政網漁場ニ變更セントスルモノハ其角網ノ大サ左記左右隣接漁場間ノ距離ニ對スル尋數ニ超ヘス他ニ障害ナキモノニ限リ出願スルコトヲ得

但シ本令發布前設定シタル漁場ニシテ發布後位置ヲ變更セサルモノハ左記第一欄ノ制限ニ依ルヲ要セス(三十三年四月廳令第二十四號ヲ以テ)但書追加並ニ第三條第四條左記改正

左右隣接漁場間ノ直線距離	行政網漁場ト左右隣接漁場トノ距離	角	網	地方	區別
百二十間以上	六十間以上	十尋	十尋	渡島、後志、石狩、天鹽(天鹽郡ヲ除ク)四國北見國	
百四十間以上	七十間以上	十二尋	十二尋	ノ内利尻、禮文二郡	
百六十間以上	八十間以上	十五尋	十五尋	渡島、後志、石狩、天鹽(天鹽郡ヲ除ク)四國北見國	
百八十間以上	九十間以上	二十尋	二十尋	ノ内宗谷、枝幸、利尻、禮文四郡	
二百間以上	百十間以上	二十五尋	二十五尋	天鹽國天鹽郡、北見國(宗谷、枝幸、利尻、禮文四郡ヲ除ク)	
	百五十間以上	三十尋	三十尋	膽振、日高、十勝、釧路、根室、千島、六國	

第四條 北海道鮭鱒保護規則第一條第一號ニ依リ特ニ指定シタル漁場ニ於ケル鮭鱒建網漁業並全道鮭鱒建網漁業ハ其漁場間左記ノ間數以上ノ距離アルニアラザレハ出願スルヲ得ズ

第二 鮭鱒鮭鱒

漁網名稱	既設左右漁場間ノ直線距離	出願漁場ト左右隣接漁場トノ距離	地方	區別
鮭鱒鮭鱒	同上	同上	指定	漁場内
鮭鱒鮭鱒	同上	同上	同上	同上
鮭鱒鮭鱒	同上	同上	全	道

第五條 魚種ノ異ニシテ漁期ノ混同スル場合ニ於テハ本令漁場距離ノ標準ハ其長キ方ニ從フモノトス

第六條 廢業シタル漁場ニシテ一箇年以内ニ其漁場ニ於テ同一ノ漁法ニ依リ出願スルモノハ本令第一條第四條ヲ適用セス但シ隣網トノ距離ヲ廣ムルカ爲メ廢業セシ漁場ハ此限ニアラス

○鮑海鼠海扇北寄貝並石花菜採拾制限 明治二十八年一月 北海道廳令第二號

鮑海鼠海扇北寄貝並石花菜ノ採拾免許ヲ得タル者ノ遵守スヘキ制限左ノ通り相定ム

但シ本制限ノ外尙ホ北海道水産物取締規則ヲ遵守スヘシ

一 左記期間内ニ於テ鮑海鼠海扇北寄貝並石花菜ノ採拾ヲ禁ス

鮑	海	鼠	海	扇	北	寄	貝	並	石	花	菜
每年六月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ	每年五月一日ヨリ
全	道	渡島	後志	石狩	天鹽	四國	北見	根室	千島	釧路	十勝
全	道	膽振	日高	十勝	釧路	根室	千島	六國	渡島	後志	石狩

海扇	每年四月一日ヨリ 六月十五日マテ	全道
北寄貝	每年五月一日ヨリ 七月三十一日マテ	同前
石花菜	毎年一月一日ヨリ 七月三十一日マテ	同前

二鮑海扇北寄貝ノ次ニ記載スル大サニ違セサルモノハ之ヲ採拾スルヲ禁ス  
鮑 鮑尺 三寸以上  
海扇 同 四寸以上  
北寄貝 同 三寸以上  
三鮑海扇海扇北寄貝ノ産出スル箇所ハ其區域ヲ定メ三區以上ニ分チ禁漁期外ニ於テ毎年一區宛輪採スルノ法ヲ設ケ特ニ其區域ヲ定メ難キ箇所ハ他ニ蕃殖保護ノ方法ヲ定メ漁業組合ニ於テ規約シ當應ノ認可ヲ受クヘシ  
本令第一項第二項ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○厚岸湖牡蠣取締規則 明治二十九年八月北

釧路國厚岸郡厚岸湖牡蠣取締規則左ノ通り定ム  
但シ明治十八年五月根室縣申第二十一號布達ハ廢止ス

第一條 釧路國厚岸郡厚岸湖中ニ於テ牡蠣採取營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ本籍戸長ノ證明アル戸

籍寫ヲ添ヘ地元戸長役場ヲ經テ所轄郡役所ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ牡蠣ノ採取區域ハ別記圖面点線内ニ限ル

第二條 牡蠣採取營業免許ハ左ノ要件ヲ具備スル者四百五十名ヲ限リトス  
但シ本條ノ要件ヲ具フル者其數ニ滿タサルトキハ一年以來厚岸湖岸町村ニ居住シ左ノ二四ノ要件ヲ具フルモノニ限り特ニ免許スルコトヲ得  
(三十二年六月廳令第五十二號ヲ以テ但書改正)

- 一 厚岸湖岸町村ニ本籍ヲ有シテ居住シ若クハ三年以來寄留シ尙ホ引續寄留スル者タルコト
- 二 年齢十四歳以上六十歳以下ノ者ニシテ自ラ牡蠣採取ニ従事スル者タルコト
- 三 從來牡蠣採取營業ノ免許ヲ受ケタル者又ハ其家族タルコト
- 四 本則第一條ノ營業免許ヲ受ケスシテ牡蠣ヲ採取シタルコトナキ者タルコト

第三條 牡蠣採取免許期限ハ滿四年ヲ以テ一期トシ明治二十九年十月一日ヨリ起リ明治三十三年九月三十日ニ至ル次期以下之ニ準ス

第四條 前條期限内ニ於テ受ケタル牡蠣採取營業免許ハ該期間ノ滿了ト共ニ其効ヲ失フモノトス

第五條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルコトヲ得ス

第六條 免許期間滿了失効若クハ廢業ノ節ハ五日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ  
但シ死亡者ノ鑑札ハ其家族ヨリ返納スヘシ

第七條 免許鑑札ヲ亡失毀損シタルトキ若クハ改氏名轉居シタルトキハ再下付若クハ書換ヲ受クヘシ  
第八條 前條ノ鑑札書換出願中ノ者ニシテ牡蠣採取ニ従事セントスルトキハ其旨地元戸長ニ願出假鑑札ヲ受クヘシ  
但シ本鑑札交付ト同時ニ假鑑札ヲ返納セシムヘシ

第九條 牡蠣採取ニ従事スルトキハ常ニ其免許鑑札ヲ携帯シ警察官吏又ハ當該官吏ニ於テ該鑑札ヲ檢



閱シテコトヲ求ムルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ

第十條 牡蠣採取取締ニ從事スル當該官吏ニハ郡長ニ於テ其證票ヲ交付シ之ヲ携帯セシムヘシ

第十一條 牡蠣採取業者ハ漁業組合準則第一條第二條第四條第六條ニ依リ組合ヲ設置スヘシ (三十  
二月廳令第十六號ヲ以テ改正)

牡蠣採取業者ハ既ニ其免許ヲ受ケタル後ト雖モ本條組合ニ加入セサル間ハ牡蠣採取ニ從事スルコ  
トヲ得ス

第十二條 牡蠣採取業者組合ニ於テハ牡蠣採取區域ヲ分割シ四ヶ年ニ一回輪採スルノ方法ヲ規約シ當  
廳ノ認可ヲ受クヘシ

但牡蠣採取業者組合ニ於テ特ニ蕃殖方法ヲ實行スルトキハ採取區域ノ一部分ハ輪採方ニ依ラサル  
コトヲ得此場合ニモ當廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス (三十二年九月廳令第七十  
六號ヲ以テ本條但書追加)

第十三條 牡蠣採取業者ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 牡蠣ハ毎年七月一日ヨリ九月三十日マテ採取スヘカラス

二 牡蠣ハ其大サ二寸五分ニ達セサルモノハ採取スヘカラス

三 牡蠣ハ官廳指定區域内ニ於テ之ヲ刺クヘシ

第十四條 何人ヲ問ハス厚岸湖中ノ苔藻ヲ採取シ又同湖中ニ貝壳其他塵芥土石ヲ投棄スヘカラス

第十五條 營業者ノ外何人ヲ問ハス厚岸湖中ニ於テ牡蠣ヲ採取スルコトヲ得ス (二十九  
年十月廳令第  
五十八號ヲ以テ本條  
改正)

學術研究ノ爲メ牡蠣ノ採取ヲ出願スル者アルトキハ郡長ハ場所及期節ヲ論セス許可スルコトヲ得

第十六條 本則第一條ノ免許ヲ得スシテ牡蠣ヲ採取シ又ハ第五條第十三條第一項第三項第十四條ニ違

背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス (二十九  
年十月  
廳令第十八號ヲ  
以テ本條改正)

第十七條 前條第一項ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シ郡長ハ其營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ  
得

○昆布製造取締規則 明治二十六年八月北  
海道廳令第三十四號

昆布製造取締規則左ノ通り定ム

但本令ハ渡島國ノ内上磯郡膽振國ノ内室蘭幌別二郡日高國一圓十勝國ノ内廣尾十勝二郡釧路國ノ内  
白糠釧路厚岸三郡根室國ノ内花咲郡千島國ノ内國後郡ノ外當分ニテ施行セス

昆布製造取締規則

第一條 本規則ニ於テ昆布ト稱スルハ左ノ四種トス

長切昆布 水昆布 棹前昆布 拾昆布

第二條 昆布製造ニ關スル組合ニ於テハ其組合ノ規約中尙左ノ二項ヲ規定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受  
クヘシ

一 昆布乾燥選擇法

一 昆布ノ尺度結束法及量目

第三條 昆布製造ニ關スル組合ハ二名以上ノ取締人ヲ設置スヘシ

第四條 前條組合事務所ハ別紙雛形ノ證票ヲ製シテ其組合區域内ノ生産者ニ交付シ生産者ハ昆布結束ノ際之ヲ一駄毎ニ投入スヘシ

第五條 昆布結束ノ後輸出若クハ販賣セントスルトキハ其生産地ノ組合取締人ノ検査ヲ受クヘシ組合取締人ハ第二條ノ規定ニ合格スルモノハ毛判ヲ押捺シテ検査済ヲ證スヘシ

但毛判ハ組合ニ於テ之ヲ定メ北海道廳長官ヘ届出ヘシ

第六條 第四條ノ證票及第五條ノ毛判ナキ昆布ハ何人ト雖トモ輸出販賣スルヲ得ス

第七條 北海道廳長官ハ官吏ヲ派シ昆布ノ製造ヲ検査セシムコトアルヘシ

第八條 本則第四條ノ證票ヲ投入セス又ハ第五條ノ検査ヲ受ケサルモノ若クハ第六條ニ違背シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第九條 從來北海道廳長官ノ認可ヲ得タル組合規約ニシテ本則ニ適合スルモノハ更ニ認可ヲ受クルニ及ハス

第十條 第四條ノ證票ハ明治二十六年採取ノ昆布ニ限り従前使用ノモノヲ以テ代用スルヲ得

(別紙)證票雛形略之

○漁業組合準則 明治十九年十一月北海道廳甲第十三號布達

漁業組合準則左ノ通定メラル

但同業組合準則漁業組合例則昆布營業取締規則ニ基キ既ニ組合ヲ設ケ規約認可ヲ得タル分ハ向後規約改正ノ際ニ至リ此準則ニ基キ更ニ組合ヲ組織スヘシ

右布達ス

漁業組合準則

第一條 漁業水産動植物採ニ従事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ管轄廳ノ見込ヲ以テ組合ヲ要セサルコトアルヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕魚採藻 遠海漁業若クハ大地引臺 各其種類ニ從ヒ殊ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スル者ハ必ス一組合ト爲スヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 組合ノ目的
- 三 役員選舉法及權限
- 四 會議ニ關スル規程
- 五 加入者及退去者ニ關スル規程
- 六 違約者處分ノ方法
- 七 費用ノ徵收及賦課法
- 八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
- 九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事

- 十 漁場區域ニ關スル事
- 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
- 第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ  
但シ規約ヲ更正シ若クハ其組合分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ
- 第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所ノ本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ  
但シ支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○醫師免許規則 明治十六年十月  
布告第三十五號

醫師免狀規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス但明治十五年(二月)第四號布達同年(八月)第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫師免許規則

- 第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ「內務卿」ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍其效アリトス
- 第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及策證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツヘシ
- 第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキ

ハ「內務卿」ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ內務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ內務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ醫籍ニ登錄シ時時之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ內務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經「內務卿」ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ內務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 「內務卿」ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ調査シ中央衛生會ノ審査ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○試驗ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ授與スヘキ者格例 明治十六年一月內務省達乙第四十六號

本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ依リ試驗ヲ要セス免許ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

- 一 三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等其履歷ニヨリ本條ニ準スルコトアルヘシ)ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ
- 一 生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ
- 一 四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試驗法ノ完備スルモノ
- 一 生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ
- 一 器械標本ヲ具備スルモノ

○從來開業ノ醫師ハ試驗ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス 明治十年八月內務省達乙第七十六號

昨明治九年當省乙第五號ヲ以テ醫師試驗ノ儀相達從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管轄ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得

シモノノ外ハ總テ成規ノ試驗ヲ遂ケ候儀ト可相心得事

- 一 內務省警視病院醫員及ヒ舊警視廳醫員但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ
- 一 陸軍省軍醫副及軍醫試補以上
- 一 海軍省軍醫副以上
- 一 文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官以下當直醫以上並同省直轄諸學校醫員(皇漢醫道掛種痘館掛ハ之ヲ除ク)
- 一 司法省及舊彈正臺醫員
- 一 宮内省六等侍醫以上及舊少典醫舊權少侍醫以上
- 一 開拓使病院醫員
- 一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○從來開業ノ醫師ニ免狀付與ノ件 明治十七年一月內務省乙第四號達

從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候此旨相達候事

○醫師免狀ノ引換方 明治十八年七月內務省乙第二十四號達

從來當省ヨリ下付シタル醫術開業免狀左記ノ分證議ノ次第有之今般免狀書換下渡候條該免狀所持ノ者ヘハ新規免狀交付舊免狀返納可爲致此旨相達候事

從來開業ノ醫師ハ試驗ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス  
從來開業ノ醫師ニ免狀付與ノ件 醫師免狀ノ引換方